平成３０年度

教育委員会点検・評価報告書

令和元年１１月

登別市教育委員会

目　　次

Ⅰ 教育委員会の点検・評価について・・・・・・・・・・・・　２

Ⅱ 評価の手法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

１ 点検・評価の対象
２ 実施の流れ

Ⅲ 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

１ 教育委員会の活動状況の概要報告・・・・・・・・・・・・・・　３
２ 重点施策の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
３ 重点施策の評定結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５９

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等・・・・・・・・・　６０

Ⅴ 評価のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６１

Ⅵ 参考資料

１　平成 30 年度教育行政執行方針
２　教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

Ⅰ 教育委員会の点検･評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の改定により、毎年教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされ、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する方の知見の活用を図ることとされました。

登別市教育委員会では、効率的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たしていくため、地教行法に基づき、平成 30 年度の教育委員会の活動状況の報告と基本方針及び重点項目の主な施策（20 項目）について点検・評価を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して「教育委員会点検・評価報告書」としてまとめました。

本報告書を公表することにより、市民の皆様に教育に関する事務の管理及び評価の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図ってまいります。

Ⅱ 評価の手法

１ 点検･評価の対象

登別市教育委員会の点検・評価は、教育委員会の活動状況の他、平成 30 年度の教育行政執行方針に位置づけられた施策・事業を点検・評価の対象として実施しました。

２ 実施の流れ

⑴ 教育委員会の活動状況の概要報告

教育委員会の１年間の様々な活動について

⑵ 平成30年度の重点施策の管理及び執行状況の評価

・教育行政執行方針に位置づけられている重点施策を評価しました。

点 検 内 容	当該年度の教育行政執行方針の重点内容
取 組 状 況	当該年度内に実施した取組の概要
評　　価	取組の実施状況に対する評価
今後の方向性	今後の取組を進める上での課題や対応の方向

⑶ 教育行政執行方針における重点施策の評定結果

・４段階（Ａ～Ｄ）で、評価を実施しました。

Ａ：達成しているもの
Ｂ：おおむね達成しているもの
Ｃ：達成見込みであるが一部課題があるもの
Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの

⑷ 点検・評価に関する学識経験者の意見等

・点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する行政外部の方からの意見、助言をいただきました。

学識経験者

氏　　名	所　　属　　等
石　井　憲　一　氏	元日本工学院北海道専門学校　参与
永　井　延　和　氏	登別市退職校長会　会長
吉　野　幸　広　氏	前登別市郷土資料館　館長

Ⅲ 評価結果

1 教育委員会の活動状況の概要報告

(1) 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議については、毎月下旬に開催しました。必要に応じて開催する臨時会議は、平成30年度は行いませんでした。

会議においては、登別市教育委員会教育長に対する事務委任規則に従って、教育長委任事務以外の事務における議案の提案理由や説明が行われた後、各委員からの質問・意見などの審議を経て、いずれも可決、了承されました。また、事務局からの情報提供や各種課題、事業の進捗状況、その他事項の報告について、意見交換を行いました。

(2) 平成30年度　登別市教育委員会「定例会議」の概要

第１回 会議	4/25 16:30	報告第1号　教育委員会事務局職員の人事異動発令に係る臨時代理について 報告第2号　教職員人事の内申に係る臨時代理について 議案第1号　小学校及び中学校における事務主幹の命課基準等の廃止について 情報提供1　平成29年度学校運営協議会実施状況について 2　平成30年度登別市小中学校「校長会」「教頭会」三役について 3　平成30年4月10日時点度登別市立学校児童生徒数・学級数調書について 4　平成30年度登別市立学校主要行事等予定一覧について 5　平成30年度学校施設等の工事事業計画について 6　登別市小中学校英語教育推進プログラムについて 7　登別市ウオーキングマップについて 8　こいのぼりマラソンの申し込み状況について 9　第3次登別市子ども読書活動推進計画の策定について 10　登別市立図書館のめざすものの策定について 11　移動図書館車こぐま号の更新について 意見交換から(委員の意見・感想) ・かつてはＰＴＡ主催で様々な競技を行っていたが、学校運営協議会主催の若草小学校ソフトボール大会はユニークだと思う。 ・4,500部作成した健康ウオーキングマップは市民の健康増進のために効果的な役割を果たすと思うが、公共施設に置いてもそれを持ち帰る方は少ないと思う。何か効果的な配布を考えてはどうか。 ・以前より保護者の抵抗感が少なくなり、特別支援教育を受けることは子どもにとって良いことという理解が進んできたと思う。特別支援学級と普通学級を行き来して勉強するような動きもかなり自由になり、特別支援の免許を持つ先生も段々と増えていき、対応も良くなってきたと思う。
第２回 会議	5/31 16:30	議案第2号　登別市立図書館協議会委員の任命について 議案第3号　登別市社会教育委員の委嘱について 議案第4号　登別市スポーツ推進委員の委嘱について 情報提供1　登別の教育推進に関する検討会議について 2　駐日デンマーク王国大使のご訪問について 3　運動会出席者の調整について

		4　平成29年度巡回パトロール活動及び街頭指導等状況調書について 5　平成29年度不審者等出没状況調書について 6　登別青嶺高校の間口調整について ・不審者に遭遇し交番に逃げ込んでも不在のことが多く、ここに電話してくださいという形になっている。常駐するような対応を取っていただけるよう、市教委や市として要望していただけると被害防止の一助になると思う。
第３回 会議	6/28 16:30	報告第3号　平成30年度教科用図書第10採択地区調査委員の委嘱に係る臨時代理について 報告第4号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第5号　平成30年第2回登別市議会定例会一般質問について 議案第5号　平成29年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価に係る学識経験者の活用及び選任について 情報提供1　携帯電話やスマートフォン等についてのアンケート結果について 2　公立高等学校配置計画案（平成３１年度～３３年度）について 3　夏季休業期間における休校日の設定について 4　平成30年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業について 5　ＡＬＴ新規招致者について 6　第68回社会を明るくする運動メッセージ伝達式の参加について 7　教育委員会広報「教育のぼりべつ」の発行について 意見交換から(委員の意見・感想) ・エピペンはアレルギーなのか違う症状なのか、判断はとても難しいと感じる。養護教諭を中心にいろんな事例を見ながら考えていただきたい。 ・携帯電話やスマホを長時間使用していると脳が破壊されるというような話を北海道消費者協会で資格を持つ方から聞くような機会を設けてみてはどうだろうか。 ・ゲーム障害という病名がＷＨＯでも疾病分類に入ったので、そういうアプローチも今後必要になると思う。専門外来も立ち上がったらしい。
第４回 会議	7/26 16:30	議案第6号　平成30年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 情報提供1　携帯・スマホに係る今後の動きについて 2　平成30年度夏季休業期間における休業日設定状況について 3　平成30年度夏季休業期間中における学校図書室の開放について 4　市民プールの無料開放について 5　平成30年度図書館要覧について 6　平成30年度学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議について 7　平成30年7月6日の学校給食温食の提供中止について
第５回 会議	8/30 16:30	報告第6号　平成30年度教科用図書第10採択地区教育委員会協議会採択結果について 議案第7号　登別市立学校管理規則の一部改正について 議案第8号　教科用図書採択地区の変更に係る同意について 情報提供1　ＡＬＴ新規招致者の紹介について 2　平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

		3　文化芸術による子供の育成事業（巡回公演）の開催について 4　市民スポーツ・健康フェスティバルの開催について 5　2020東京オリパラで夢を育むスポーツ推進事業 丹羽孝季さんトークショー＆実技指導について 6　平成29年度生涯学習事業 実績と点検評価について 7　温食への異物混入について 意見交換から(委員の意見・感想) ・子どもを見ていると調べる力が弱く、辞書を使うのも下手。小学生でもパソコンを使うことができるので、すぐにインターネットで調べてしまう。学校では、インターネット情報はどこまで信用できるのかというところを指導してほしい。 ・都市教育委員会の分散会で、最近は朝図書の時間を捻出するのが難しくなっていると聞いた。本を読むことから読解力が生まれ、それがどの教科にも良い結果として波及すると私は思う。ぜひ、朝読書を続けていただきたい。
第６回 会議	9/27 16:30	報告第7号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第8号　平成30年第3回登別市議会定例会一般質問について 議案第9号　登別市立学校における働き方改革基本方針について 情報提供1　夏季休業期間中の学校図書室開放利用状況について 2　郷土資料館特別展「明治期の登別」について 3　9月に発生した災害に対する市教委の対応について 意見交換から(委員の意見・感想) ・働き方改革が北海道アクションプランという形で全道的な動きとして皆で一つの方向に進み、取り組みやすくなった感じがする。ただ、一生懸命やるという側面で教育活動の中身が疎かというか希薄にならないようにしてほしい。 ・先生方の意識改革をして余力ができた時間は社会に目を向けるとか、近隣の方々とのコミュニケーションとかも必要なのではないか思う。 ・教員が精神的、肉体的に追い込まれているという報道があり、なり手が少なくなっている。保護者や地域住民も教員の仕事に対して理解をしなければいけない。
第７回 会議	11/1 16:30	議案第10号　平成29年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価報告について 情報提供1　平成30年度登別市功労者表彰及び登別市表彰被表彰者の決定について 2　教育ふれあいウイークについて 3　小学校外国語活動推進に係る取組の状況について 4　登別版＜家族の週間＞の実施について 5　平成30年度西いぶり定住自立圏文化事業について 6　登別市教育振興基本計画の策定について 意見交換から(委員の意見・感想) ・点検評価報告は大変多岐に渡って点検されている。殆どがＡの評定は素晴らしい結果。ただ、Ｃが２つあるので来年の課題になると思う。 ・学校評議員という語句が残っているが、学校運営協議会委員にかわったと思う。別の表記にした方が分かりやすいのでは。 ・報告の中に、学校保健委員会を中心に、という表現がある。委員会を開催している学校が少ないと耳にしているので、是非ここは強調してもらいたいと思う。

第８回 会議	11/29 16:30	報告第9号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 議案第11号　登別市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 議案第12号　登別市立学校学校医等表彰について 議案第13号　平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 情報提供1　教育ふれあいウィーク実施状況について 2　登別市キャリア教育懇談会･登別市キャリア教育実務担当者会議の報告について 3　登別市幼保小中連携の現状について 4　学校給食一食あたりの単価の状況について 5　胆振図書館協議会研究集会公開講演会『ヨーロッパ公共図書館からの報告』について 意見交換から(委員の意見・感想) ・給食費の価格改定はしかたない。改定しないことで食材の安全・安心や栄養価が脅かされるのは本末転倒。その部分を十分考慮した適正な価格を提示してほしい。
第９回 会議	12/20 16:30	報告第10号　平成30年第4回登別市議会定例会一般質問について 情報提供1　平成31年度教育行政執行方針（案）概要について 2　平成30年度冬期休業期間中における学校図書室の開放について 3　平成30年度登別版「家族の週間」協賛団体施設利用状況について 4　平成31年登別市成人祭について 5　小・中学生の読書感想文・感想画コンクールの結果について 6　胆振管内教育委員会教育長の報告について ① 第3回胆振管内学校における働き方改革推進会議について ② 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について ③ 飲酒運転の根絶に向けた取組の徹底について 7　教科用図書採択地区再編成の変更について 意見交換から(委員の意見・感想) ・学校司書は専門的な知識を持ち、地域の学校図書のために尽力されているので、是非、長期間に渡り職種を全うしていただき、再雇用していただきたい。
第10回 会議	1/24 16:30	議案第14号　平成31年度登別市教育行政執行方針について 議案第15号　平成31年度学校給食費の改定について 情報提供1　平成31年度登別明日中等教育学校の合格状況について 2　冬季休業期間中の学校図書室開放利用状況について 3　登別市英検チャレンジ事業について 4　平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について 5　平成30年度卒業式出席者の調整について 6　管内教育委員会委員研修会について 意見交換から(委員の意見・感想) ・体力・運動能力調査は、生徒数も異なるので簡単に比較はできないが、他の市町村の結果とも比較して分析してみることも必要と感じる。

第11回 会議	2/28 16:30	報告第11号　教育委員会事務局職員の懲戒処分に係る臨時代理について 報告第12号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 議案第16号　登別市教育振興基本計画について 議案第17号　登別市文化財審議会委員の委嘱について 議案第18号　登別市ＰＴＡ連合会助成金交付要綱の制定について 議案第19号　登別市子ども会活動振興助成金交付要綱の制定について 議案第20号　登別市文化振興助成金交付要綱の制定について 議案第21号　登別市体育協会助成金交付要綱の制定について 議案第22号　登別市スポーツ少年団育成助成金交付要綱の制定について 議案第23号　市民マイプラン講座事業実施要綱の一部改正について 情報提供1　平成31年度教育行政執行方針について
第12回 会議	3/28 16:30	報告第13号　教育委員会事務局職員の人事異動に係る臨時代理について 報告第14号　教職員人事の内申に係る臨時代理について 報告第15号　平成31年第1回登別市議会定例会一般質問について 報告第16号　市議会定例会追加提出議案に関する意見に係る臨時代理について 議案第24号　登別市教育委員会事務局処務規程の一部改正について 議案第25号　登別市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 情報提供1　平成30年度土曜授業事業実績及び平成31年度事業計画について 2　登別市立学校における働き方改革について 3　平成31年進路状況について 4　平成30年度学校運営協議会実施状況について 5　平成31年度市内小中学校入学式について 6　登別市郷土資料館特別展の開催について 意見交換から(委員の意見・感想) ・働き方改革の電話対応が午後6時までと聞いて驚いていた保護者がいた。長く働き過ぎるのはいけないので、定着すればこういう意見は消えると思う。 ・教職員が元気で明るくパワーを持って生徒と接することが大事。そのためにも是非教育委員会が主体となって働き方改革を進めていただきたい。 ・学級通信は先生の温かさを感じる。作成の労力を考えると、学級通信の発行を少なくしてメール一本でお知らせというのもわかるが、便利なようで少し寂しく、物足りなさを感じる人がいるかもしれない。 ・小学校の卒業式に出席したが、女の子は羽織・袴の児童が増えている。親は自分の子どもが目立って欲しいという気持ちがあると思う。

(3) 調査活動の実施状況

教育委員会委員による小中学校の教育活動の視察や研修活動の概要

①公開研究会等の視察

10/26　幌別中学校：武田教育長
10/30　登別中学校：武田教育長・垣内委員・堅田委員
11/22　鷲別小学校：武田教育長
2/ 2　幌別小学校：武田教育長

②教育ふれあいウィーク

10/27　11/10　市内一斉学校公開日「ふれあいウィーク」土曜授業視察

※「教育フォーラム」は未開催（隔年実施、平成 31 年度実施予定）

③各種会議・研修会の参加

北海道都市教育長会春季定期総会（芦別市）5/10　秋季定期総会（小樽市）11/7

全国都市教育長協議会（岩手県一関市）5/16.17

胆振管内教育長会議　4/10　5/28　7/20　9/4　12/19

北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会（岩見沢市）8/21

武田教育長・垣内委員・森口委員・赤井委員

胆振管内教育委員会委員研修会 登別万世閣　2/14

武田教育長・垣内委員・赤井委員

④入学式出席

幌別西小学校(4/7)	垣内委員	登別小学校(4/6)	堅田委員
鷲別小学校(4/9)	森口委員	富岸小学校(4/7)	赤井委員
幌別中学校(4/6)	垣内委員	鷲別中学校(4/6)	森口委員
緑陽中学校(4/6)	赤井委員		

⑤運動会参観

青葉小学校(6/9)	武田教育長・垣内委員	富岸小学校(6/9)	武田教育長・赤井委員
幌別小学校(6/9)	武田教育長	鷲別小学校(6/16)	武田教育長
登別小学校(6/16)	武田教育長・堅田委員	若草小学校(6/16)	武田教育長・垣内委員

⑥学芸会（学習発表会）参観

登別小学校(10/21)	堅田委員	富岸小学校(10/20)	武田教育長・赤井委員
若草小学校(10/13)	垣内委員		

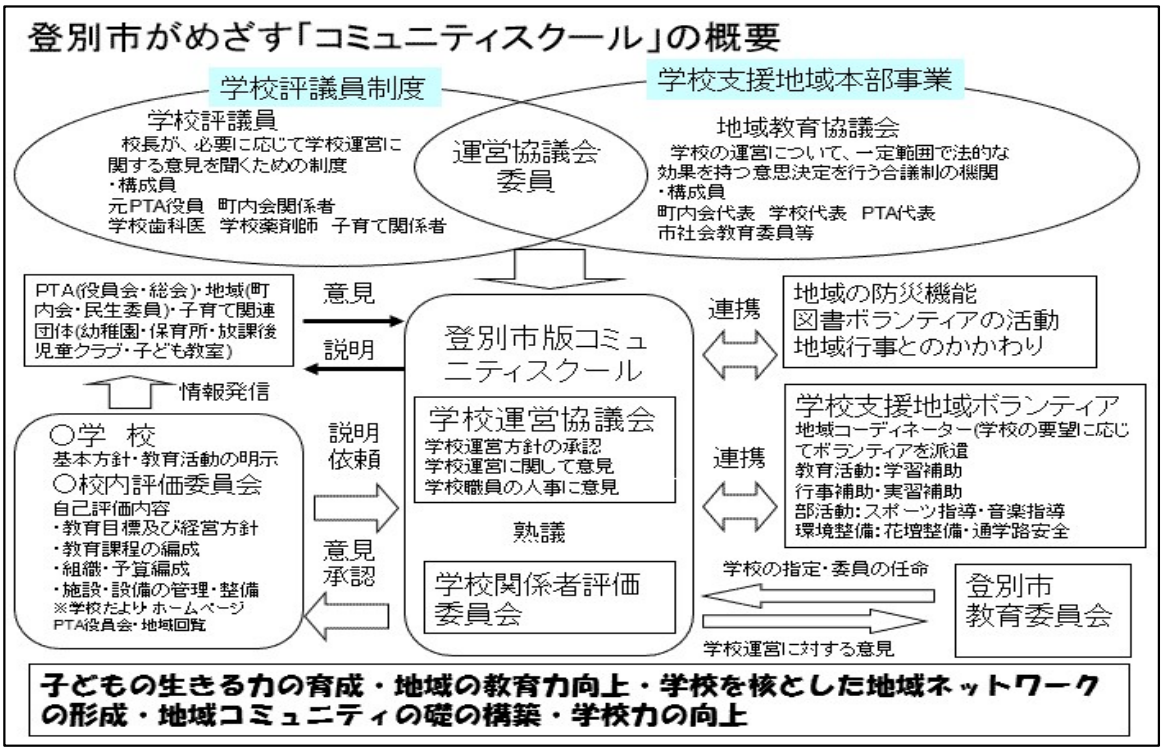
⑦卒業証書授与式出席

鷲別中学校(3/14)	森口委員	緑陽中学校(3/14)	赤井委員
登別中学校(3/14)	堅田委員	幌別西小学校(3/19)	武田教育長
青葉小学校(3/19)	垣内委員	富岸小学校(3/19)	赤井委員
登別小学校(3/20)	堅田委員	鷲別小学校(3/20)	森口委員

２ 重点施策の評価

項　目	１　地域とともにある学校づくり
点検内容	これまで本市においては、コミュニティ・スクールと学校支援地域本部を設置し、学校と家庭、地域が連携・協力し、地域の教育力を活かして子どもたちを育む教育の推進に努めてきた。今後は、地域全体の協働により子どもたちの成長を支える方向性が国から提言されているので、これまでの取組を検証するとともに、協働体制の整備などについて検討を重ね、地域学校協働本部へと発展するよう進める。

取組状況



○学校運営協議会の話し合いの内容

	月	日	主な議題（学校経営方針以外）	次年度の方向性
幌別小	6	29	放課後・長期休業学習サポート 交通安全ボランティア　ふれあい農園	学校支援地域本部と一層の連携を図る
	11	29	いじめ防止の取組　働き方改革に伴う業務改善　若手教員の育成	
	2	21	学校評価集計結果　あいさつの励行　正しい生活習慣の定着	
登別小	7	18	教育活動の進捗状況　いじめ調査結果　携帯スマホ調査結果	幼保小中連携を一層充実させ、地域の教育力の更なる活用を図る
	10	29	前期学校評価　学力調査結果概要　授業参観　給食試食	
	12	6	【幼小中合同】睡眠時間等から見える学習・生活習慣上の実態と課題	
	3	11	学校評価　学校関係者評価　次年度の行事予定　家庭学習	
若草小	4	26	道徳教育推進　学力体力向上策　いじめ不登校等生徒指導状況	若草小地域交流まつりの改善・充実を図る
	6	21	地域交流祭り進捗状況　せわずき・せわやき隊　学校と地域行事の確認	
	9	5	地域交流祭り業務分担　交流会反省会　町内会との避難訓練反省	
	12	20	2学期の教育活動反省　次年度の地域交流祭りの方向性	
	3	14	学校評価結果　若草地域交流まつり企画　次年度の方向性	
鷲別小	6	26	新校舎落成・130周年記念事業　環境整備（花壇づくり・草刈り）	登別市総合防災訓練との連携を図る
	1	9	協賛会進捗状況　置き勉　挨拶・姿勢の指導　安全指導	
	3	14	次年度の行事予定　教職員の働き方改革　協賛会事業への支援	
幌東小	7	27	土曜授業　学習支援ボランティア　市民演芸会　開校50周年に向けて	開校50周年事業の準備を加速する
	3	14	学校評価結果と改善策　開校50周年企画　会長退任について	
幌西小	5	30	ＣＳ基本的考え確認　小中連携事業・学校行事への協力依頼	ＣＳと小中連携事業の一体化と三者の連携を目指す
	11	10	総合的な学力形成　家庭・地域との連携　震災対応	
	2	22	【小中合同】学校評価小中共通項目の結果分析　学校の働き方改革	

富岸小	5	22	学力・体力向上策　いじめ防止策　安心・安全活動	次年度も合同運営協議会において、共通の話題で熟議する
	12	1	社会に開かれた教育課程と働き方改革推進具体案　特色ある教育活動	
	12	13	【小中合同】趣旨説明　合同避難訓練	
	2	26	学校関係者評価　次年度の方向性　新学習指導要領　働き方改革	
青葉小	7	2	学力調査概要　いじめ調査　携帯スマホ依存　ふれあい坂の安全	ふれあい坂を含めた学校周辺の安全確保に努める
	12	6	学力調査、体力調査、スマホ調査結果に基づく取組	
	12	13	【小中合同】趣旨説明　合同避難訓練	
	3	7	学校関係者評価　次年度の行事予定	
幌別中	4	27	いじめ・不登校　土曜授業　相談員・ＳＣ・ＳＳＷの活用	校区の小学校2校との連携を進める
	9	13	授業評価結果　保健室利用状況　学校評価アンケート結果	
	2	4	学校評価についての説明協議　体力向上　いじめ問題　小中連携	
西陵中	5	16	学力向上対策　特色ある教育活動　土曜授業等の取組	日常的な情報発信と共有の場を多く設定する
	11	10	学力調査結果　いじめ調査報告　不登校の状況	
	2	22	【小中合同】学校評価小中共通項目の結果分析　学校の働き方改革	
鷲別中	6	7	保健環境/安全支援/学習支援コミュニティ活動内容　合同避難訓練	学習規律や挨拶の指導は小中で連携して推進する
	10	31	3コミュニティ活動反省　不登校の状況　学力調査結果	
	2	22	学校評価分析結果　通学路の一部変更　登別市総合防災訓練	
登別中	6	7	学校行事実施状況　土曜授業　職業体験受入依頼　熊舞登別駅前講演	学習/文化伝承/安全環境の各支援機能に担当配置する
	12	6	【幼小中合同】睡眠時間等から見える学習・生活習慣上の実態と課題	
	2	20	学校経営反省　学校評価（アンケート）分析結果　次年度の行事予定	
緑陽中	7	18	学力向上・道徳教育の指針　いじめ防止・不登校対策の取組	5月中旬に第1回の運営協議会を実施する
	10	15	学力調査結果分析　小中一貫教育　合同避難訓練　持ち物の軽量化	
	12	13	【小中合同】趣旨説明　合同避難訓練	
	3	7	体力調査結果説明　小中一貫教育推進　働き方改革　学校評価	

○各校の土曜授業取組状況　※道の指定を受けて5年目

平成29年度より全13校が協力校として取り組む。

	月	日	１校時	２校時	３校時	備　　考
幌別中	4	14	授業(担任)	学級懇談会	学校説明会	全学級公開
	5	26	授業	1年田植え　2年地域清掃　3年学校花壇		ＣＳ事業
	7	14	授業		学級懇談会	授業参観日
	9	8	避難訓練準備	幌東小との合同避難訓練		ＣＳ事業→地震で中止
	11	10	授業	全校道徳		命を大切にする教室（法務省主催）
	12	15	1・3年授業 2年認知症サポーター養成講座		1・2年学級懇談会 3年授業	ＣＳ事業　授業参観日
幌別小	4	14	授業		学校説明会	授業参観日
	7	21	授業		非行防止教室	4校時(授業)
	8	25				台風接近による臨時休業
	11	10	授業	授業・修学旅行報告会		
	12	15	授業	授業・道徳		4校時(道徳)全校一斉道徳公開
	1	19	授業			冬休み作品発表会

	月	日	１校時	２校時	３校時	備　　考
幌別東小	4	14	授業			2校時(授業参観)
	6	23	授業			通常授業
	9	8	幌別中との合同避難訓練			ＣＳ事業→地震で中止
	9	29	授業	東っ子タイム発表会		4校時(道徳公開)
	10	28	授業			講師を招いての授業中心
	12	1	行事(市民演芸会参加)			ＣＳ事業(駒踊り発表)
	12	15	授業			4校時(授業) 9.8の振替授業
西陵中	7	21	授業	地域清掃		
	8	25	授業	津波避難訓練(幌西小と合同で実施)		雨天のため8/28に延期
	11	10	授業(道徳)			道徳公開
	12	15	1・2年～授業　3年～保護者や地域の方と合格祈願餅つき			民生委員の方も参加
幌西小	7	7	授業	全校体力テスト		4校時(全校体力テスト)
	8	25	事前指導	津波避難訓練 (西陵中と合同で実施)		雨天のため8/28に延期
	11	10	授業			4校時(授業) 道徳公開
	12	1	標準学力テスト		長縄記録会	長縄大会のみ公開
鷲別中	7	21	チャレンジテスト		道徳	チャレンジテスト活用
	9	8	学級活動	学校祭部門活動		部門ごとに分けての活動
	10	27	3年進路学習	2年PTA学年レク 1・3年授業		1校時(1・2年授業)
	12	15	道徳	授業	学級活動	3校時(新入生保護者説明会も同時開催)
鷲別小	4	21	授業(保護者参観)			4校時(PTA総会・学級懇談)
	9	1	授業(外部講師活用)			4校時(授業)
	10	27	防災関連授業			4校時(授業) 保護者参観
	12	1	授業(手話教室・携帯電話教室)			4校時(授業) 保護者参観
若草小	4	14	授業			保護者参観
	8	25	授業		津波対応避難訓練	避難訓練→雨天のため延期
	10	27	授業・道徳			道徳公開　3校時(携帯教室)
	12	15	授業			チャレンジテスト
登別中	4	14	授業		懇談会	授業参観・懇談会・PTA総会
	7	21	地獄祭オリエンテーション	道徳(地域貢献)	町内クリーン作戦	熊舞保存会による講話
	11	10	授業・道徳		熊舞引継式・オリエンテーション	命・認知症・薬物乱用防止
	12	15	1・2年授業　3年行事(合格祈願餅つき)			保護者・地域との協働
登別小	4	21	授業			PTA総会　学級懇談会　学校運営協議会
	8	25	授業・2年収穫祭・ＯＭＢ		授業	OMB地獄祭参加中止
	11	10	授業			4校時(全学級道徳公開)
	12	1	授業		ＯＭＢ定期演奏会	※ＯＭＢ＝鬼っこマーチングバンド
緑陽中	4	21	授業		ＰＴＡ総会	参観日
	7	14	授業			参観日　学年・学級懇談
	9	1	授業	避難訓練→授業	授業→避難訓練	青葉地区連町・三校合同避難訓練
	10	27	授業(3校時　スマホ・SNSトラブル防止教室)			
	2	2	授業	学年・学級懇談会　修学旅行説明会		

	月	日	１校時	２校時	３校時	備　　考
青葉小	4	14	授業	授業(全体懇談会)	授業(ＰＴＡ総会)	
	5	12	授業	携帯・スマホ教室	授業	講師を招いての教室
	9	1	授業	地震津波避難訓練	授業	青葉地区連町・三校合同避難訓練
	10	27	授業			地域公開
富岸小	4	14	授業	授業（ＰＴＡ総会）		授業の裏でPTA総会を進行
	5	12	授業	防犯安全教室	集団下校訓練	マクドナルド防犯教室
	9	1	地域津波避難訓練		学級活動	青葉地区連町・三校合同避難訓練
	10	27	授業			全学級道徳地域公開
	12	1	長縄跳び記録会		学級活動	長縄(1時間で3学年同時進行)

○ふれあいウィーク(10/27～11/10の2週間)

11/1「北海道教育の日」に合わせて、平成16年から「ふれあいデー」として市民に市内の小中学校を公開してきたが、その取組をさらに発展させ、平成23年からは「ふれあいウィーク」として、その時期に学校公開のほかに講演会や懇談会など各種事業の取組を進めている。学校や地域、保護者が、登別の教育のあり方について考えを深め合う期間として位置付ける。

・学校公開（保護者や地域の方、市民への公開）10/27か11/10のどちらかで実施
　来校者：保護者1,301名　地域の方104名　合計1,405名
　※公開の内容は「土曜授業取組状況」を参照。
・中学校吹奏楽部定期演奏会　10/28 登別中　11/4 幌別中　10/21 緑陽中
・特別支援学級作品展　10/13～19　市民会館１F廊下

○コミュニティ・スクール通信の発行

ほとんどの学校で年間 3～12 号発行。町内会で回覧。市役所・市民会館・図書館にファイルを設置。

評　価	コミュニティ・スクールを導入し5年が経過した。各学校では、放課後や長期休業中の学習サポート、交通安全の見守り活動、地域合同避難訓練、地域の方を招いての授業、地域交流まつりなど、これまでの学校支援地域本部事業を継続、発展させ、地域の実情に応じた特色ある教育活動を進めている。また、小中合同あるいは幼小中合同で学校運営協議会を開催する地区が増え、コミュニティ・スクールと小中一貫教育の利点を同時に生かした学校づくりがみられるようになった。
今後の方向性	これまで本市においては、コミュニティ・スクールと学校支援地域本部事業を導入し、地域の教育力を活用した学校づくりを進めてきた。こうした学校支援の取組を通して、学校・家庭・地域の連携はさまざまな形で展開され、地域づくりにも大きな成果を上げている。 今後は、さらにコーディネート機能の拡充などを図り、地域と学校が連携、協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える地域学校協働活動に発展するよう努める。

項　目	2　幼保・小・中連携
点検内容	これまで登別市幼保・小・中連携協議会を中心に、情報交流や施設訪問などを通して、それぞれの教育活動への理解を深めてきたが、さらなる連携の強化に向け、教職員の合同研修や、幼児と児童の交流を推進していく。 また、小中一貫教育については、モデル校区での取組の成果や教育フォーラムにおける意見を踏まえ策定した登別市小中一貫教育基本方針に基づき、義務教育九年間を見通した継続的な指導が推進されるよう促していく。

取組状況

○平成30年度の幼稚園・保育所と小・中学校の連携事業

事　　案	発 信 元	内　　容
流行性疾病による学級閉鎖	学教G	・学校名・学年・罹患率・欠席者数
気象警報等による緊急対応	学教G･学校	・暴風雨雪警報・注意報発令時：市、学校区の対応
不審者情報・凶悪事件	社教G･学校	・警察・胆振教育局からの情報：市、学校区の対応
行事案内	学校	・年間行事予定・学芸会･運動会･卒入学式案内
学校だより	学校	・月１回作成　１部配布
教育ふれあいウィーク案内	学教G	・事業一覧(掲示用)　10/27～11/10
教育委員会広報	学教G	・教育行政全般の活動報告

・日常の情報交流、指導者・子どもの交流について

幼保･小･中連携協議会	幼保小中	8/9　登別市幼保・小・中連携協議会 出席：幼稚園代表･保育所代表･校長会代表･教育委員会 内容：平成30年度の取組と今後の推進について
	幼保小	11/6 実務担当者会議 出席～幼稚園教諭4名 保育士4名 各小学校教諭8名 子育てG2名 教育委員会6名 就学前、就学後の実態や課題について情報交流・意見交換を実施。 3/26.27「幼･保･小」実務担当者会議(合同引き継ぎ会) 出席：白菊幼稚園4名　リリー文化幼稚園2名　コロポックルの森3名 カトリック幼稚園2名　室蘭の幼稚園他8園11名　市内保育所8名 市内小学校25名 個々における就学前の実態やアレルギー等配慮が必要な事柄、就学後予想される課題について、情報や意見の交換を実施。
１日体験入学	小学校 登別中 幌別中 西陵中 緑陽中 鷲別中	1～2月 新1年生と現1年生の交流を生活科の授業体験などを通して実施 11/14　小6年生対象で体験授業と授業見学、吹奏楽鑑賞 2/4　　小6年生対象で体験授業・生徒会による学校紹介 2/25　　小6年生対象で体験授業とオリエンテーション実施 11/6　小6年生対象で授業参観と学校の概要説明 10/25　新入生体験入学　授業参観と学校の概要説明
交流活動	西陵中校区	7/10～13　10/23～26　小中合同挨拶運動（朝、本校生徒会と幌西児童会） 2/28 出前授業（英語科、数学科：西小６年生対象） 8/24 11/6 小中交流会（両校教員による授業参観と研究協議）

		年4回定期テスト前、小中同時に家庭学習強化週間設定
		年間、授業参観や校内研修に合わせた相互の授業見学
	鷲別中校区	8/21　小中教員交流会（互助会レク前）　11/22　公開研究会（研修交流）
		11/10 幼児児童生徒交流（昔遊び体験）　年間 校内研修に合わせ授業交流
	幌別中	10/1　幌東小・幌別小での吹奏楽部の演奏　児童との交流
	鷲別小	10/11 鷲別保育所とリリー文化幼稚園児、学芸会観覧
	幌西小	9/18.27 登別明日生徒による英語学習サポート
	幌東小	運動会総練習時、幌東保育所の幼児と登別地獄囃子を舞踊
		10/13 学習発表会に東保育所幼児招待
		11/29 1年生生活科「秋の宝物ランド」東保育所幼児招待
	登別小	10/18.19　登別中生徒の職業体験受け入れ
		11/8　コロポックル年長　１、２年生活科に参加
	緑陽中	1/19　富岸小餅つき大会で吹奏楽部アトラクション演奏
		2/14.15　青葉小・富岸小で6年生対象に「英語科」の出前授業実施
		3/7　富岸小で6年生対象に「音楽科」の出前授業実施
	登別中	10/1　登別小での吹奏楽部の演奏　ＯＭＢの楽器指導
	富岸小	2/14　出前授業(英語)　3/7　6年生合唱指導
	青葉小	9/20　白菊幼稚園児が１年生の授業参観
小中合同 避難訓練	幌別中地区	9/8　震災のため中止　幌東小･幌別中合同で津波対策避難訓練実施 小学生は中学生や地域の方に見守られながら避難所に向かう。 東小児童はその後鉄南連合町内会の炊き出し訓練に参加。
	西陵中校区	8/25　幌西小と合同で訓練　市防災担当職員から講話
	緑陽中校区	9/1　小中一貫・地域連携津波避難訓練　消防職員から講話
	鷲別中校区	6/5　鷲中・鷲小で避難訓練同日開催
	登別中地区	9/27　登別小・コロポックルの森と避難訓練同日開催
家庭科～保育 体験	鷲別中	10/24～26 3年生　鷲別保育所で保育体験
	登別中	9/13 3年 コロポックルの森 美術で製作の絵本披露
	緑陽中	10/23～11/１　3年生 保育実習
総合的な学習 の時間	登別中	10/18.19 職業体験 2年生 コロポックルの森・登別小他、校区内事業所
	幌別中	10/17　職業体験 2年生 市内小学校1校と白菊幼稚園、幌別東保育所にて実施　直接幼児や児童と交流
	西陵中	10/30　職業体験 2年生　市内幼稚園・保育所で体験
	鷲別中	10/23　職業体験 2年生　登別温泉地区
	緑陽中	10/11　職業体験 2年生　校区事業所中心
幼稚園・保育 所視察	幌別小	10/18 カトリック幼稚園教員による学校視察（全学年）受入
		5/16 教員がカトリック幼稚園視察
		6/15　白菊幼稚園年長児童来校　授業見学
		12月 教頭が白菊幼稚園発表会視察
	幌西小	教頭・教務主任・特別支援コーディネーターで、2.16白菊幼稚園、2.7カトリック幼稚園、2.8富士保育所を視察・懇談、白菊幼稚園の発表会を参観
		10.18　幌別西小学習発表会児童公開に、年長組園児が来校参観
		7月　教員が白菊幼稚園を視察　10/25　教員が東保育所見学
	幌東小	11/15　校長が発表会を参観　3/19　校長・教頭が退所式に参列

	登別小	コロポックルの森　入学式、発表会、参観日に視察
	若草小	教員が室蘭美園幼稚園視察（11/5）
		リリー文化幼稚園を視察（3/5）
	鷲別小	保育所参観時に視察　　保育所発表会（鷲別・栄町）参観
	富岸小	教員が白菊幼稚園を視察　幼稚園教員が授業参観　幼稚園や保育所職員が小学校参観日に参観
	青葉小	教員が白菊幼稚園視察、白菊幼稚園教員が授業参観
	登別中	保育や職業体験の時に合わせてコロポックルの森を視察
	鷲別中	保育体験の時に合わせて鷲別保育所を視察
	緑陽中	保育体験の時に合わせて富岸子育て広場を視察
	幌別中	職業体験に合わせて白菊幼稚園、幌別東保育所を視察
	西陵中	職業体験に合わせて市内幼稚園や保育所を視察

○小中一貫した教育の推進

・4月の校長会議～2月策定の登別市小中一貫教育基本方針を受け、単なる連携に留まらず、成果を実感できる取組を進めるよう確認。
・市内全中学校区で推進協議会の立ち上げ～めざす子ども像の検討、取組内容の検討、企画、実行。
・中学校区内で合同研修会開催～校区内の教職員で目的や課題の共有。具体的な取組内容の確認。
・西陵中校区では、学校評価の項目を一部統一。成果と課題の共有化を図る。
・11月の校長会教頭会合同研修会～各校の実践交流。

評　価	幼保・小・中連携協議会を立ち上げて6年が経過した。授業参観や実務者協議により、各施設における教育活動についての相互理解や情報交流が一層進んでいる。これは、担当者同士が何度も顔を合わせ、言葉を交わすことで関係が強化されている証である。 小中一貫の取組については、登別・西陵中学校区で進めた成果を活かし、他の中学校区で取組を発展させることができた。市内全中学校区で推進協議会を設置し、めざす子ども像を共有することで、より効果的な取組を進めることができた。とくに、合同研修会の開催は広がりをみせ、学校評価の項目を一部統一する校区など、独自の取組も見られるようになった。
今後の方向性	幼保・小・中連携については、引き続き相互参観や合同研修などを通してそれぞれの教育活動への理解を深めるとともに、子ども一人一人が安心して学校生活を始めることできるよう、幼保・小協働による小学校からのスタートカリキュラムの作成、修正を目指す。 また、小中一貫教育については、登別市小中一貫教育基本方針を踏まえ、系統的、継続的な指導が推進されるよう促していく。

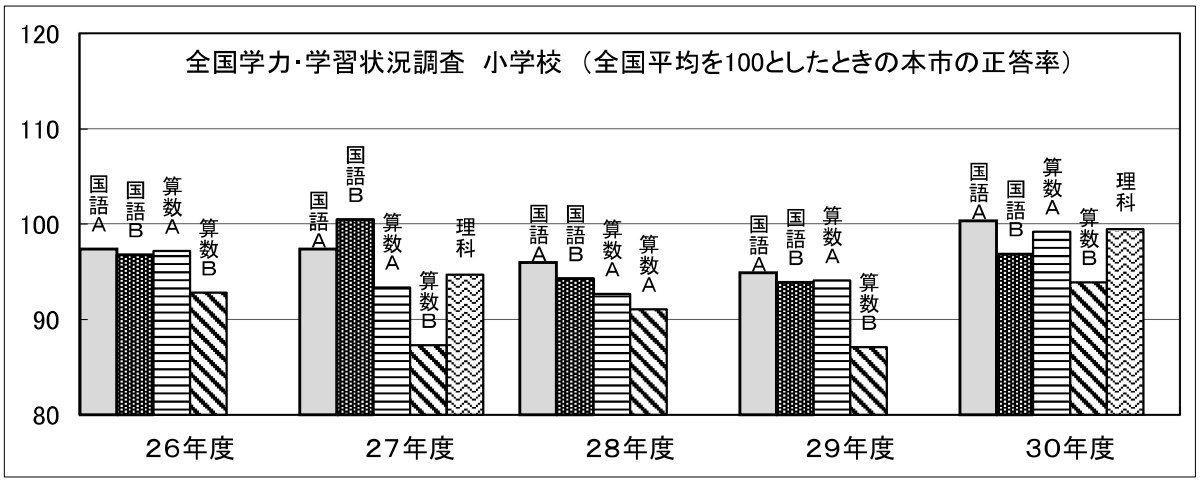
項　目	3　確かな学力の向上
点検内容	全国学力・学習状況調査の結果、「書くこと」に関する基礎的な事項や家庭学習の時間などで一定の成果が表れているが、一方では知識・技能を活用する力やテレビ・ゲーム機などさまざまなメディアとの接触時間などに課題があるので、教育課程課題検討委員会を通して学習指導の工夫・改善を図る。 また、チャレンジドリルの活用や放課後学習教室、長期休業中のサポート学習など、各学校の取組を支援する。

取組状況

○全国学力･学習状況調査（対象：市内小６年生・中３年生）の結果分析と課題の明確化

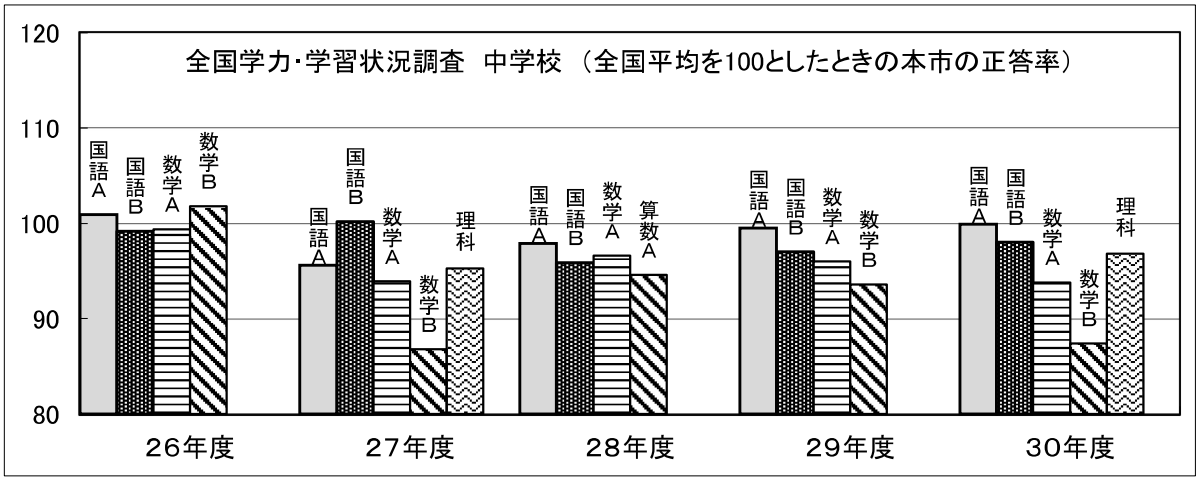
⑴全国平均を１００とした時の登別市の正答率の状況

小学校



→　国語Ａの正答率が全国を超えた。算数Ａ、理科は全国と同程度。国語Ｂ・算数Ｂは全国を下回った。
国語Ａの「話すこと・聞くこと」や理科の「エネルギー」では全国の正答率を上回った。

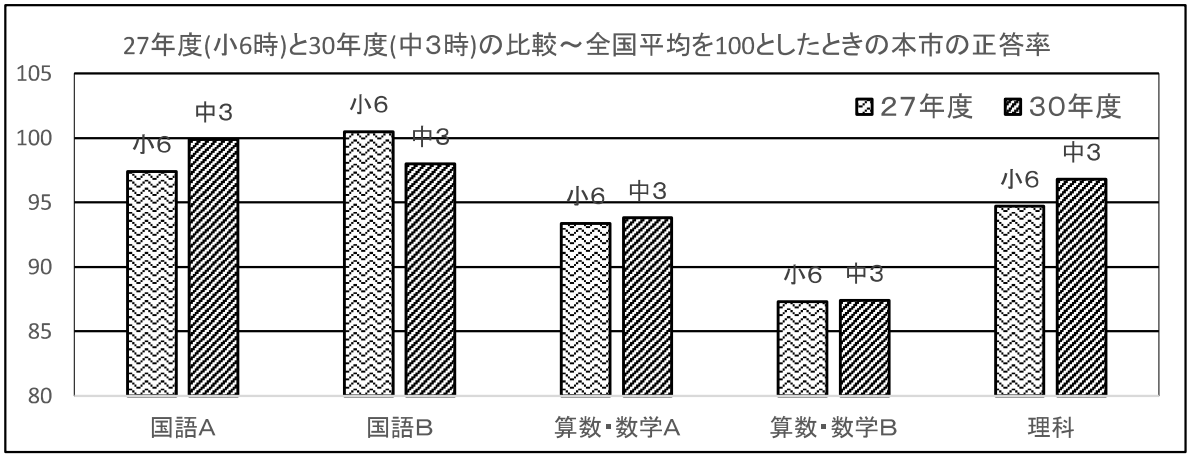
中学校



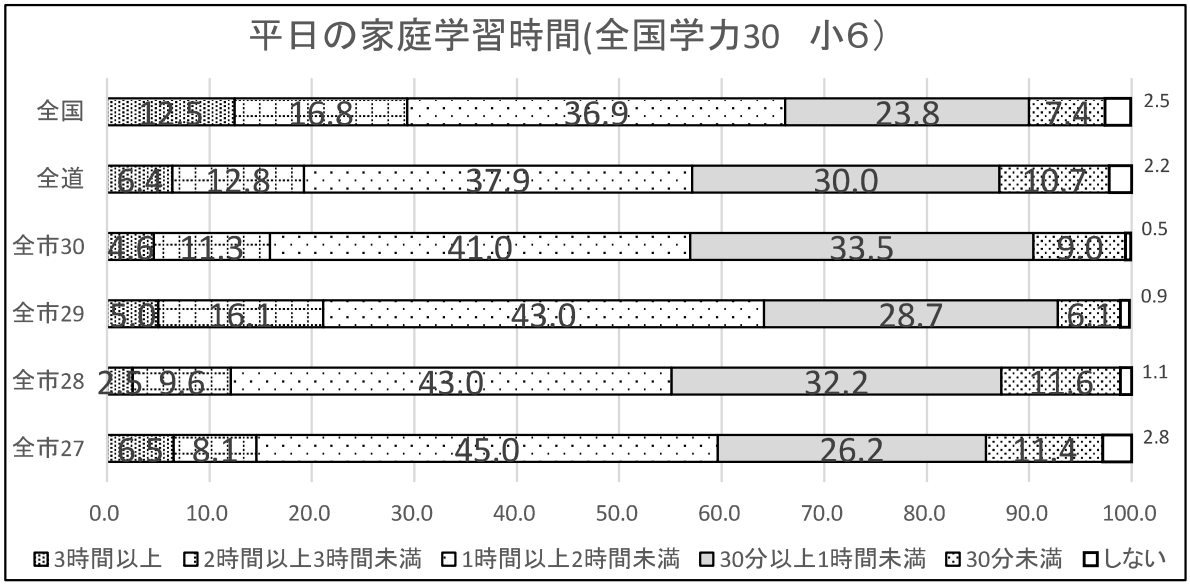
→　国語Ａでは全国の平均正答率と同程度だが、他の教科は全国の平均正答率を下回った。
特に数学に課題がある。全国の正答率を上回ったのは、国語Ａの「書くこと」や理科の知識。

(2) 小学６年時と中学３年時の変容

国語Ａや理科は大きく改善。数学では、依然苦手意識が残る。

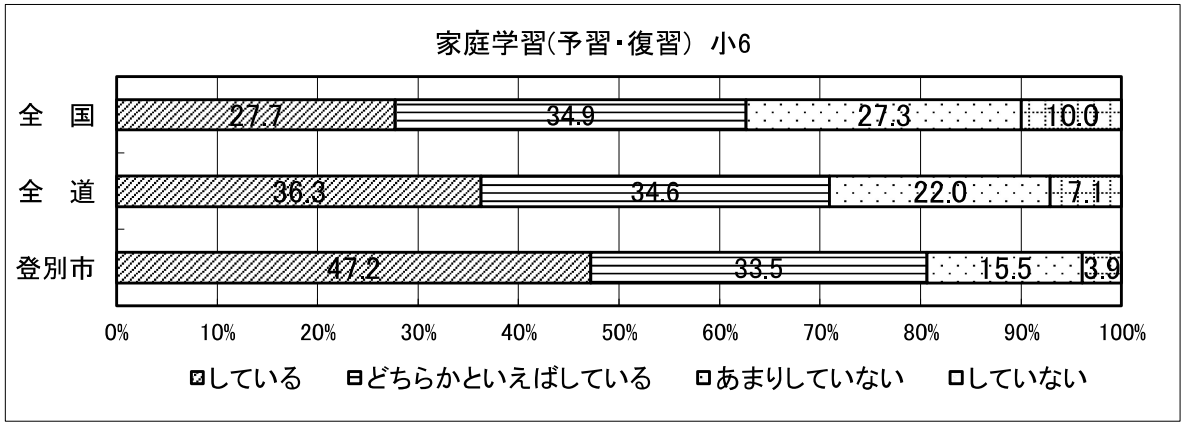


(3) 児童質問紙から：市内小学６年生



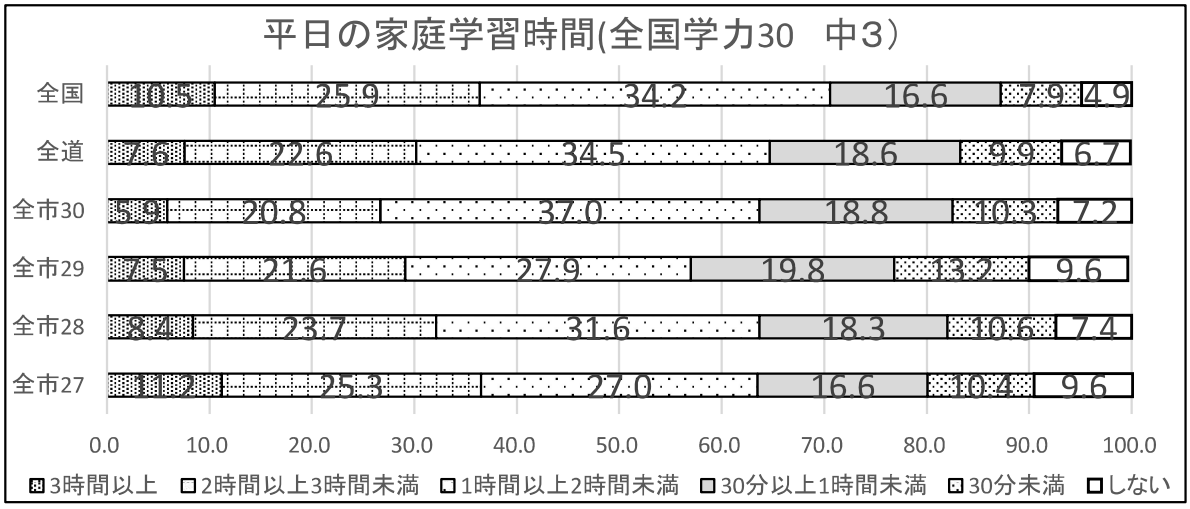
→　1時間以上学習する割合は、全国66.2%。全道57.1%と本市56.9%で同程度。

「30分未満」と「しない」を合わせた数は、全国と同程度。「しない」児童は少ない。

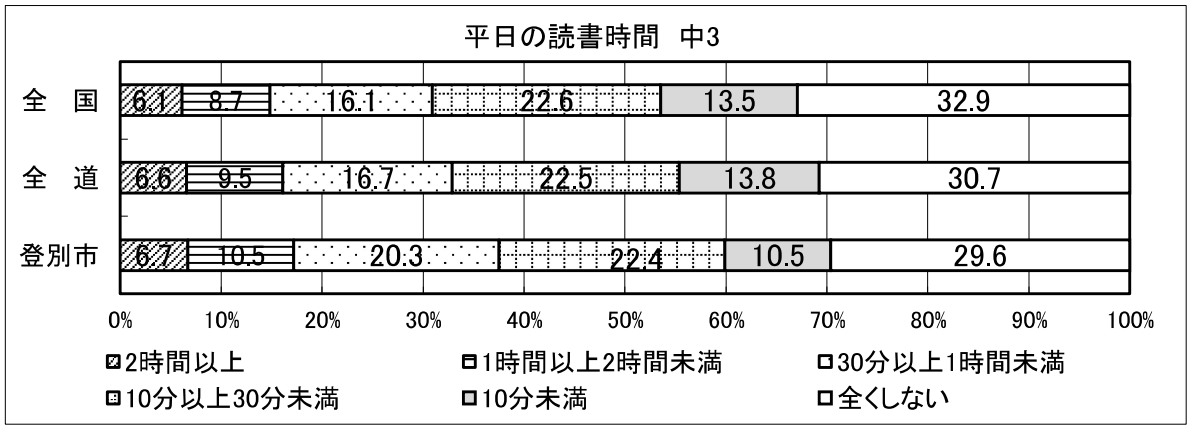


→　家庭で予習や復習をする児童は、全国や全道に比べてとても多い。

(4)生徒質問紙から：市内中学３年生



→　1時間以上学習する生徒の割合は、全国70.6%。全道64.7%と本市63.7%で同程度。
「30分未満」と「しない」を合わせた数は、全国や全道よりも多い。



→　10分以上読書をする生徒の割合は、全国53.5%・全道55.3%より多く、本市は59.9%。
「10分未満」と「しない」を合わせた数は、全国や全道よりも少ない。

(5)学校質問紙から

・小・中学校ともに、「全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有した」と回答した学校の割合が、全国や全道を上回っている。また、すべての小学校が「保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った」と回答している。

・すべての中学校において、「校長は、校内の授業をほぼ毎日見て回っている」と回答している。
また、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」と回答した学校の割合が、全国や全道を上回っている。

○各学校の取組に対する支援

①教育課程課題検討委員会

参加者：校長会研修担当、全小中学校教頭、教務主任、学力向上・外国語担当等の教諭

第１回～7月２日

前半は、市教委より本市児童生徒の学力向上について説明後、中学校区ごとに課題解決の方策を交流。後半は、西陵中の滝澤校長より外国語活動等の実践と小中接続のポイントについて説明を受けた。

第2回～2月18日　前半は、市教委より本市児童生徒の算数・数学を中心とした学力向上について、また、最新の教育動向（プログラミング教育等）についての情報提供を行った。後半は外国語教育巡回教諭より、外国語（活動）の現状と次年度の課題について説明後、中学校区ごとに交流・協議を行った。

②学習支援専門員の配置と学校支援

・配置　教育指導室に主任学習指導員・学習指導員の2名を配置。

・取組　４月　　全国調査に向け「心構え」「鬼っ子チャレンジテストはじまり号・復習問題（算数・数学）」作成と各小中学校への配布

全国調査に向けた放課後学習の実施（登別小・西陵中）

放課後学習教材「鬼っこチャレンジテスト」小学校用の改善と、ドリルの作成

５～３月　放課後学習　実施状況に応じ、ヒントカード、ドリルや繰り返し問題を作成

７月　　夏休み学習用「鬼っこチャレンジテスト夏休み号」の作成配布

２学期　全国学力・学習状況調査結果の分析と考察、チャレンジ問題への反映

12月　　冬休み学習用「鬼っこチャレンジテスト冬休み号」の作成配布

３月　　市内児童生徒の課題を踏まえ、次年度に向けた教材の改善

・放課後学習の推進状況

学校名	登録児童生徒数	取組の状況	指導員数
幌別小	5年9名 6年11名	11回実施 5年のべ93名 6年のべ115名	6名
幌西小	4年12名 5年13名 6年6名	15回実施 のべ人数4年126名 5年133名 6年71名	10名
富岸小	5年32名 6年19名	7回実施 5年のべ138名 6年のべ130名	12名
登別小	5年18名 6年13名	12回実施 5年のべ201名 6年のべ151名	8名
若草小	4年16名 5年10名 6年4名	12回実施 4年のべ174名 5年のべ94名 6年のべ33名	8名
幌東小	全学年	9回実施 のべ450名	24名
鷲別小	5年16名 6年16名	9回実施 5年のべ115名 6年のべ102名	11名
青葉小	5年23名 6年29名	11回実施 5年のべ249名 6年のべ257名	8名
登別中	1年～3年	44回実施 のべ802名参加(1回15～20名程度)	3名
西陵中	2年9名 3年11名	2年2回 3年33回実施 2年のべ18名 3年のべ193名	2名

成果と課題

・一斉指導では実現状況に課題がある児童生徒や理解に時間を要する児童生徒に対して、指導員のきめ細かな個に応じた指導が展開され、参加児童生徒個別に成果を上げている。

・特に、小学校の放課後学習においては、児童の反応を観察しながら、会話を繰り返すことにより、児童の思考の流れ（速さや考え方の特徴等）に応じた個別指導が進められている。その結果、児童自ら課題解決できた満足感や喜びを持つことにつながっている。

・地域の方々から直接指導を受ける体験を通して、地域で生活している実感、自分のために時間をさき、知恵を絞り、心を向けてくださることへの感謝、知り合いが増える中で培われる親近感等、人としての豊かさを身につけている。

・放課後学習に対する理解が十分でない児童生徒が「やらされている」という気持ちで参加すると、学習態度に現れ、学習内容の実現状況に影響を及ぼしてしまう例が見られた。

・教育委員会作成の同じ問題を使用して指導していることから、対象児童の違いはあるものの指導の結果としての実態も窺える。

評　価	全国学力調査において、小学校は国語Ａで全国の平均正答率を上回ったが、算数Ａ、理科で全国と同程度、国語Ｂ・算数Ｂは全国を下回った。中学校は国語Ａで全国と同程度だったが、他の教科は全国の平均正答率を下回った。とくに数学に課題がある。 学習状況調査において、小・中学校ともに、1時間以上学習する割合が全国を下回り、全道と同程度となった。すべての小学校が、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行っており、家庭で予習・復習をしている児童の割合も高いので、今後は算数・数学の学力向上に対する支援のさらなる充実を図る必要がある。
今後の方向性	学力の向上については、全国学力・学習状況調査の結果から算数・数学などに課題が見られるので、引き続き教育課程課題検討委員会を中心に、学習指導の工夫・改善を図っていく。また、プログラミング教育では、登別市情報教育推進協議会や日本工学院北海道専門学校と連携し、各学校における具体的な取組が進められるよう支援していく。

項　目	4　英語教育
点検内容	小学校での外国語科の導入に合わせて登別市小中学校英語教育推進プログラムの見直しを図るとともに、外国語指導助手（ＡＬＴ）を活用し、子どもたちのコミュニケーション能力の育成や外国の文化・歴史への興味を高めることを通して、国際理解教育を推進する。 また、小学校外国語巡回指導教員を活用して、小学校教員の指導力と英語力の向上を図り英語教育の充実に努める。

取組状況

・平成29年度改訂の「登別市小中学校英語教育推進プログラム」を基に、特に小学校では、新学習指導要領移行期間で取り組む内容を市内全体で改めて確認し、授業時数確保とともに、指導に係る環境整備を図った。併せて、小学校教員の英語力・指導力向上を図るため、道教委の小学校外国語活動巡回指導教員研修事業を活用し、巡回教員を市内全小学校に派遣して指導体制づくりを進めた。また、円滑な学校間接続の観点から、本市で取り組む小中一貫教育の機能を活用し、中学校の外国語科の授業公開を通した研修機会を設定するなど、中学校教員に対する意識付けも並行して進めることで、義務教育9年間を見通した英語教育の展開をした。

・ＡＬＴの派遣（4名配置）～数多くネイティブな英語に触れる機会の創出→各学校に週1回以上派遣
　小学校の外国語活動(全学年)、中学校の英語の授業で教員とのＴＴ形態による指導を行った。
　小学校1・2年では、生活科等で年10時間程度、国際理解教育を行った。
　小学校への年間派遣回数～372回（2名分）　中学校への年間派遣回数～372回（2名分）

・地域の特性を生かした取組
　登別小～地獄まつりで外国人観光客に自作の観光案内を配布　登別中～熊舞を英語で紹介し披露

評　価	外国語科が全面実施となる2020年度に備え、小学校教員の英語力・指導力向上を図るため夏季休業中の英語指導力向上研修や中学校の英語授業公開など、研修機会を設定することができた。今後は、学校をあげて研修に参加することができる体制づくり、ＡＬＴの積極的な関与など、取組の充実を図る必要がある。

今後の方向性	引き続き登別市小中学校英語教育推進プログラムに基づき、ＡＬＴの活用を図りコミュニケーション能力の育成と国際理解教育の推進に努める。 また、小学校4年生全員に英検ジュニアを実施するとともに、英検三級を受験する中学生生徒に対し検定料の半額を補助し、児童・生徒の英語学習に対する意欲を支える。

項　目	**5　学校図書館**
点検内容	学校図書館司書や学校図書館担当者を対象にした研修会などを通して専門的な知識を高め、児童・生徒の読書活動や学習活動の推進に努める。

取組状況

○各学校の朝読書と図書ボランティアなどの活動状況

学校名	朝読書	図書ボランティア	その他
幌別小	毎朝 10 分	読み聞かせ・貸出返却・ＡＬＴ読み聞かせ	図書委員の読み聞かせ
幌西小	毎朝 10 分	読み聞かせ・飾付・貸出・本の整理	図書だよりの発行
鷲別小	月～水 20 分	読み聞かせ 環境整備 新刊紹介 図書便り発行	小学生新聞を授業活用
登別小	火金 15 分	読み聞かせ（年間７回実施）	図書室の環境整備
富岸小	火曜 10 分	月２回程度、朝の読み聞かせ	図書室環境整備
幌東小	毎朝 10 分	読み聞かせ・お話会・飾り付け	読書の木・目標設定
若草小	月金 10 分	読み聞かせ・環境整備・新刊紹介	図書委員読み聞かせ 読書の木
青葉小	月木 10 分	飾付・環境整備、朝の読み聞かせ	図書委員および異学年の読み聞かせ
幌別中	毎朝 10 分	週２回程度、読み聞かせ・貸出返却・環境整備・新刊紹介・ﾃｰﾏｺｰﾅｰ・学級文庫入れ替え	委員会補助・図書通信
鷲別中	毎朝 10 分	読み聞かせ・図書紹介(週火木２回) ３年生への読み聞かせ（３月）	前後期に分けて本購入 ビブリオトークの実施
登別中	毎朝 10 分	活動なし	委員会による運営
西陵中	毎朝 10 分	活動なし	学級文庫入れ替え
緑陽中	毎朝 10 分	週３回環境整備・読書啓発	図書委員会による新刊の紹介

○学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議

1 ねらい　小中学校の図書室に新聞が配備されていることから、学校図書館での新聞活用について、教育的効果や活用事例を専門家講師を招いて学ぶ。併せて、平成30年３月に策定した「第３次登別市子ども読書活動推進計画」について概要説明を行い周知を図る。

2 日　時　平成30年6月29日（金）　15:30～16:45

3 参　加　小・中学校教諭8名　司書教諭6名　学校司書4名　学校図書ボランティア・図書館等14名

4 内　容　連絡会議

①情報提供　・第３次登別市子ども読書活動推進計画について

②講義　　・学校図書館で新聞をどう使うか

○登別市学校司書連絡会議～年７回実施

1 ねらい　市内小学校に配置されている学校司書の連携を図り、互いの知識を共有することにより、さらに有効な学校図書館整備の充実を図る。

2 内　容　活動内容の交流・図書館だよりなどの意見交換・本の整理に関する情報交換・英語の本の読み聞かせに関する情報交換　その他

○長期休業中の学校図書館の開放～小学校のみ　（　　）は29年度

読書活動推進の一環で実施。休業中の日時を設定し児童に対し学校司書による貸し出し業務を行う。

利用状況～夏休み185名(213名)貸出冊数229冊(225冊)　冬休み138名(144名)貸出冊数161冊(162冊)

○小学校への団体貸出

「わくわく文庫」を除籍処理し、市内小学校全８校に１学年２コンテナ委譲。３学級以上は追加。

実績：85 学級に貸し出し。（実施率 100%）　提供冊数 3,465 冊

○小・中学生の読書感想文・感想画コンクール

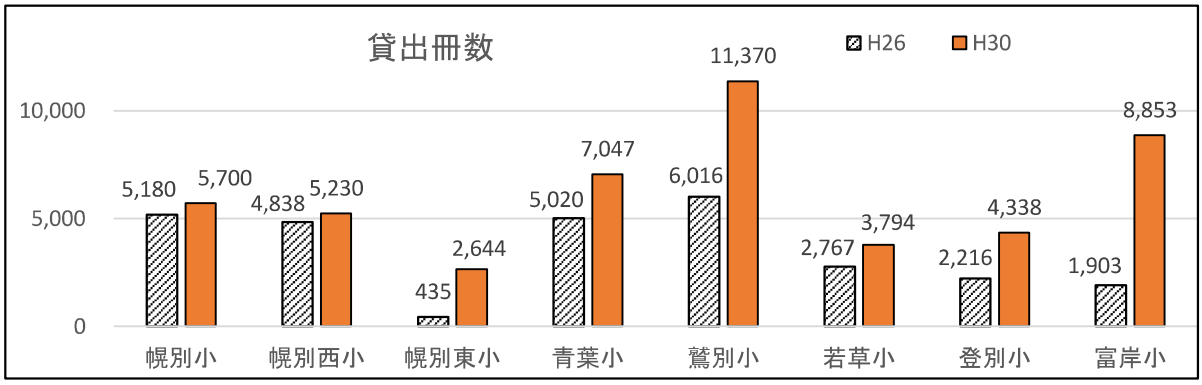
応募件数：感想文 406 作品（入選 58 作品）・感想画 251 作品（入選 16 作品）

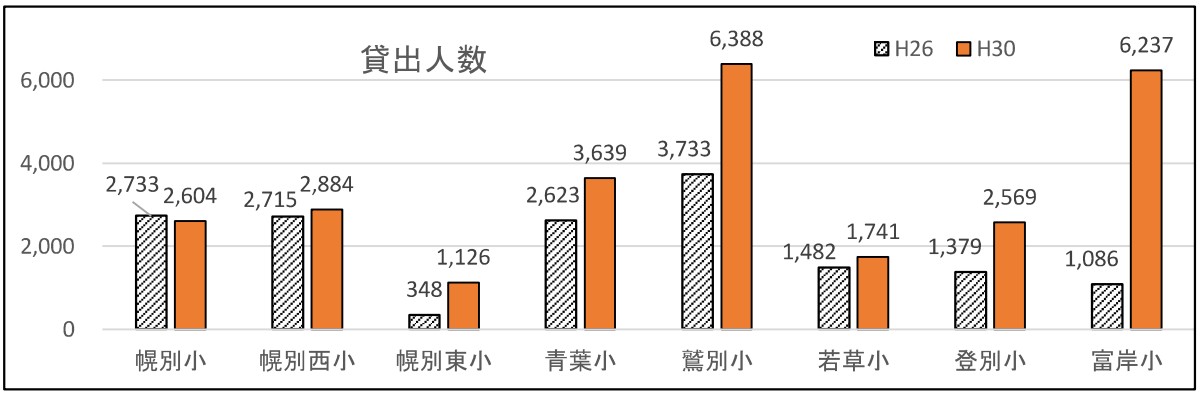
○学校図書館担当職員（学校司書）の小学校への配置

図書館司書等の有資格者を段階的に2校に1人の割合で配置した。

・H25～26年度　2人を4校に配置（幌別西小、青葉小、鷲別小、若草小）

・H27 年度以降　4 人を 8 校に配置（上記に加え、登別小、幌別東小、幌別小、富岸小）





評　価	学校司書の配置は、４小学校で６年目、他の４校では４年目となった。学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議や学校司書連絡会議を通して、有効な学校図書館整備が図られた。その結果、多くの学校で貸出冊数や貸出人数が増加している。また、今年度も長期休業中の学校図書館利用の機会を設け、子どもたちの本への関心を高めることができた。
今後の方向性	学校図書館司書や学校図書館担当者が中心となり、本を身近に感じる環境づくりと多様な本に触れる機会の充実に努め、読書習慣の定着と読書意欲の向上が図られるよう促す。

項　目	6　教職員の指導力の向上
点検内容	多様化する教育課題に適切に対応するため、教育実践研究奨励校に小・中学校十校を指定し、各学校の研究・研修活動を支援する。 また、長年の学校力向上に関する総合実践事業の取組が評価され、幌別小学校が平成２９年度の文部科学大臣表彰を受賞した。このことは登別市の教育にとって極めて意義のあることと考え、引き続き同事業の成果が市内各学校に還元されるよう促す。

取組状況

○登別市教育実践研究奨励校

学校名	領域･教科	研　究　主　題	年度
幌西小	学習指導	一人一人の子どもが生き生きと表現しようとする学習過程の研究 ～国語科「書くこと」における指導を通じて～	29･30
青葉小	学習指導	自分の考えをもち、ともに学び合う子の育成 ～言葉を大切にし、学びを高める国語の授業を通して～	29･30
鷲別小	学習指導	共に考えることが楽しい学習を目指して ～子どもの実態に合わせた算数の授業づくりについて・日常生活に役立つ算数の授業を通して～	29･30
若草小	道徳教育	自ら行動し、よりよく生きようとする子どもの育成 ～道徳的な実践意欲を喚起させる授業の研究を通じて～	29･30
幌別中	学習指導	思考力・判断力・表現力等を高める授業の工夫 ～主体的に学ぶ活動を通じて～	29･30
登別中	道徳教育	豊かな心を持ち、主体的・自律的に生きる生徒の育成 ～道徳教育の充実を通じて～	29･30
幌別東小	道徳教育	豊かな心を育む道徳教育の充実 ～主体的に考え、議論する道徳科の授業改善～	30･31
富岸小	学習指導	学習指導要領の改訂に基づいた授業改善 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組～	30･31
西陵中	学習指導	一人ひとりが主体的に学ぶ生徒の育成 ～生徒同士の関わり合いを大切にした小集団での協同(働)的な学習を取り入れた授業を通して～	30･31
鷲別中	道徳教育	自他を尊重し、より良く生きようとする生徒の育成 ～道徳の時間における主体的・協働的な学びを通して～	30･31

○地域連携研修事業１

主体校：幌別小　連携校：胆振管内全小中学校

主体校が取り組んだ研修・研究課題

日常の授業改善と教師の授業力向上という２つの課題を、校内研修と個人研修の充実を通して解決していった。研究主題を「確かな学力を育てる授業の創造～教師の授業力向上を目指して～」とし、国語科、算数科を窓口として、主体的、協働的な学びの確立を目指した。

また、学校力向上に関する総合実践事業の取組と連動し、人材育成をテーマに「メンター型人材育成システム」の研究を継続し、学校公開では講師として北海道教育大学姫野完治准教授を招聘し、講演をいただくとともに幌別小のメンター研修の取組に対する助言指導をいただいた。

視察研修

10/26　苫小牧市立拓進小学校公開研究会参加（板垣教諭）

連携校への還元

2/1　登別市立幌別小学校学校公開・教育講演会（場所：幌別小　参加者：管内外教諭90名）

講演：教育効果の高い「学校における人材育成と授業改善」

講師：北海道教育大学大学院　准教授　姫野　完治　氏

6/21　全体研修を実施し近隣校を対象に授業を公開（算数科　１年生　６年生）

9/20　全体研修を実施し近隣校を対象に授業を公開（算数科　１年生　４年生）

12/6　全体研修を実施し近隣校を対象に授業を公開（算数科　５年生）

11月・2月　ミドルリーダー指導力向上研修会（荒木教諭　年２回）

7/30　初任1年次研第2期において、学校力事業（メンター研修等）説明（菊地教諭・田坂教諭）

2/5　コミュニティー・スクール道南ブロック研修会　講師（教頭）

◯学校力向上に関する総合実践事業実施報告書(概要)　実践指定校～幌別小

	具体的取組内容	実施内容及び成果	到達目標の結果
学校マネジメント	○ＳＭＡＲＴに基づく目標を設定し達成度の基準を明確化･可視化した取組の推進 ①知･徳･体のバランスのとれた教育活動の改善･充実 ②学校力向上に関する総合実践事業の推進 ・人材育成 ・チーム学校づくり ③学校経営方針の明示 ・学校経営のグランドデザイン作成 ・経営方針の周知(PTA 総会･学校運営協議会･学校だより等) ④学校経営の方針を学年学級経営案の重点とリンク ⑤短期スパンによる課題検証改善活動の充実 ・学校評価年２回実施（前後期） ・月１回をベースとする各分掌におけるＰＤＣＡサイクルによる業務改善の推進	○学校経営方針を学年学級経営案の重点とリンクさせ日常的に意識した取組を行うとともに、学期ごとの交流会で状況を確認し改善策を明らかにすることができた。 ○ミドル･ベテラン層がしっかり初任段階教員とかかわりをもち、人材育成、チーム学校づくりを進めることが浸透してきた。	○学校評価　AB 評価 ・授業が分かり意欲的に学んでいる　87.6% ・あいさつがよい 79.9% ・好ましい人間関係を育てる学級経営 86.4% ○内部評価　AB 評価 チーム力で効果的な人材育成を実践　95.7% ○内部評価　AB 評価 教師用日常業務チェックシート達成度 79.2%
人材育成	○ＯＪＴを基盤としたメンターチームの構成，及びメンター研修の推進 ○各ステージに応じた　「教員育成指標」における目標の具体化とメンター研修への反映	○メンターチームで授業改善、学級経営について協議し、若手教員の力量を高めることができた。 ○ミドル･ベテラン層の育成とさらなる力量アップにつながった。	○各メンターチーム面談年３回実施 ○メンター研修年７回実施 ○メンター研修充実に向けたミドル・ベテラン対象の協議を年２回実施
	○管理職による毎日の授業参観と指導	○管理職による授業参観を毎日複数回行い、事後指導により、教員個々の学級経営や授業改善につながった。特に、初任段階教員個々の力量形成・向上につなげられた。	○管理職が日常的･継続的に個別指導を行うことで、経験段階に応じ授業力が向上している。 ○保護者アンケート「授業が分かりやすい」の項目上位2段階の評価87.6%。

	○校長との授業研究・協議（校長が学級担任全員の授業を参観。学級担任は、学習指導案を作成。授業後にその授業について指導・助言）	○初任段階教員7学級で通年で実施した。授業を通し、事後校長室にて感想とともに個別で指導を受け授業改善、授業力向上につなげることができた。	○全ての授業者について１時間の授業参観を行い、放課後、校長と協議、指導を行った。
	○年代別（ミドル・ベテラン層によるメンター研修），学年・ブロック別等によるテーマ別研修の実施 ○「教員育成指標」を踏まえたメンター研修の実施	○毎月最低１回の全体研修、２～３回の算数や国語の授業づくりにかかわるチーム研修、学年研修で教材研究を行い、個々の授業力が向上した。 ○全職員を対象に、多岐に渡るテーマ別研修を短時間で実施し、個々のスキルアップにつながった。	○年間で、校内全体研修 13 回、学年ブロックによるチーム研修 20 回実施。またテーマ別研修７回。学年研修はほぼ毎週１回行った。
教育課程・指導方法等	○主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの推進及びチャレンジテストや全国学力・学習状況調査の問題への取組	○2～5 年については、学力向上に関わり改善の兆しが見えてきているので、引き続きチャレンジテストを授業で活用するなどして、客観的なデータに基づいて授業改善を図る。若手教員の授業に多くの課題が見られるため、今後もＯＪＴによるマンツーマン指導で授業改善を図る。	○全国学力・学習状況調査 国語Ａ -3.0　Ｂ -8.0 算数Ａ -7.0　Ｂ -8.0 ○標準学力検査（教研式 CRT） 得点率平均全国比 国語 +9P　算数 ±0P ○チャレンジテスト 国語+0.2P 算数-0.1P ○児童学習状況アンケート 授業が分かりやすい 87.6% ○保護者アンケート・学校評価 指導充実に関する項目 保護者～87.6%
	○課題解決的な 4 段階の指導過程をベースとした指導方法の研究推進（「見通す・振り返る」学習活動の重視） ○教師一人一人の授業力を高める校内研修の充実（教師の授業力向上，授業改善に特化した校内研修）	○「日常の授業づくり」が浸透し、年齢差や経験差を超えた学び合いがさらに深まった。研修活動以外の時間にも授業改善について職員間の交流が盛んになり、日常化されている。	○研究授業公開 各担任年間３回以上実施 ○校内研修 年間 35 時間以上実施 ○児童学習状況アンケート 授業が分かりやすい 87.6%
	○児童の実態に基づいた TT 指導の推進 ○重点指導単元の設定，習熟度別学習指導の実施	○算数科の習熟度別指導を計画より多く実施したことで、個に応じた指導が展開でき、６年生の単元テスト得点率が向上した。 ○保護者の少人数指導に対する肯定的評価が95%となり効果が認められた。	○TT 指導時数 算数 TT:414H 習熟度別少人数：464H 理科 TT:532H ○保護者アンケート「TTの授業が子ども学力向上へ」上位2段階の評価は95%。
地域・	○幌別中学校区内での 9 年間を見通した教育課程の確立と実行 ○小・中学校間の授業参観・交流 ○合同研修会の実施 ○幌別西小との連携	○ミニ研修は質が高く、初任層教員の資質向上に寄与することができた。 ○幌中校区内の小中学校相互の授業交流等複数回の実施が難しかった。次年度は教員間の交流、研修が密に行える体制を作り上げる。	○幌別中学校区内の連携強化。幌中校区内情報交流年１回。

家庭との連携	○地域代表者，ＰＴＡ役員，教職員による運営協議会を組織 ○学校運営協議会（コミュニティ・スクール）による学校課題の共有化と支援体制の構築	○学校運営協議会において学校経営方針の承認や学校概要の説明を行った。授業参観日に協議の日を設定することで、校内の様子を共有し、よりよい学校運営を目指すため幅広い視点から意見いただくことができた。 ○交通安全ボランティアの毎日の安全街頭指導等に支えられ、日常的な声掛けも行ったことで児童の安全意識が高まった。	○学校運営協議会開催 6/30　11/29　2/21 年３回 ○保護者評価　AB 評価 ＰＴＡ・地域行事に積極的に参加している　５１．４％ 学校は行きやすい雰囲気 95.5％
その他	○適切なタイムマネジメントに根差した効果的かつ効率的な業務推進 ○ミドルリーダーを活用した組織の活性化	○組織的、計画的な業務改善の推進で、職員のタイムマネジメント意識の高まりが見られた。	○エクセルによる個別出退勤管理 ７月から実施 ○業務改善推進チーム設置 ・検討会議２回実施 ・職員アンケート実施

○地域連携研修事業２

主体校：幌別西小学校　　連携校：胆振管内の小中学校

主体校が取り組んだ研修・研究課題

学校マネジメントや人材育成の取組の継続と成果の創出を通して、包括的で持続的な学校改善を目指すために、

①　子供が実感を伴う学びの日常化に向けた校内研修推進による授業づくり

②　「北海道における教員育成指標」を踏まえた人材育成の取組

の2点を中心として実践を重ね、9月26日に午後日程で学校公開を開催した。また、当日午前中は学校公開における講師として招いた元横浜市初任者アドバイザーの野中信行氏に、国語科の示範授業を通して授業改善の視点を提示していただくとともに、全職員の授業参観後、若手教員を中心に授業づくりについての指導助言をいただいた。

視察研修

6/15.16 筑波大学附属小学校学習公開・研究発表会参加（藤原教諭・髙橋教諭）

10/26　苫小牧市立拓進小学校学校公開参加（神谷校長・渡部教諭）

1/31　室蘭市立みなと小学校学校公開参加（渡邉教諭）

2/ 1　登別市立幌別小学校学校公開参加（特設授業５名、教育講演会 25 名）

2/ 5　伊達市立伊達小学校学校公開参加（古川教諭・佐藤教諭）

連携校への還元

9/26　登別市立幌別西小学校学校公開　教育講演会（場所：幌別西小学校　参加者：114名）

講演：学級を軌道に乗せる「日常授業」の追究について

講師：元横浜市初任者アドバイザー　野中　信行氏

8/24　西陵中学校区小中全体交流会で近隣校に授業を公開（全学年）

11/14　全体研修を実施し近隣校を対象に授業を公開（国語　３年生）

12/12　全体研修を実施し近隣校を対象に授業を公開（英語　６年生）

1/23　全体研修を実施し近隣校を対象に授業を公開（算数　特別支援）

1/28　全体研修を実施し近隣校を対象に授業を公開（算数　５年生）

2/ 7　洞爺湖町立虻田小学校に助言者としてのミドルリーダー派遣（田原教諭）

○学校力向上に関する総合実践事業実施報告書(概要)　実践指定校～幌別西小

	具体的取組内容	実施内容及び成果	到達目標の結果
学校マネジメント	○ＳＭＡＲＴに基づき目標を設定し、子どもに身に付けさせたい力を明確化した取組の推進 ・学校経営方針の明示 ・学校経営のグランドデザイン配布により教職員、家庭、地域との子ども像の共有 ・知・徳・体の３観点に基づき、重点化を図る項目の焦点化 ・ＳＭＡＲＴに基づいた成果指標（数値目標）の設定と、検証方法の明確化 ・学校評価の年間２回（７月、12 月）実施による改善サイクルの迅速化 ・短期、中・長期間での課題改善を図るとともに、保護者、地域との課題の共有 ・学校関係者評価と連動させた学校改善サイクルの実施 ・全国学力・学習状況調査の結果分析に基づき、学力向上プランを改善し子どもの学力の定着の実現に向けた指導の徹底 ・チャレンジテストによる定着の確認、補充・補完の指導（宿題、家庭学習）	○成果指標を設定することで、成果や課題を明確にして検証できた。 ○年間４回の家庭学習強調週間を設定し、家庭学習の達成率が 70%を超えた。 ○年間２回の学校評価（教員、保護者、児童）を行い、課題点を洗い出して分掌で検討するなど組織的に改善に努めた。 ○評価内容については、「学校の情報公開」「家庭学習」についての評価が高かった。 ○新体力テストについて、目標を全職員で共有し、全校で実施した。 ○学力向上プランに基づき、チャレンジテストを実施して結果を分析し、指導の改善に努めた。	・６年生が標準スコア 50P 以上を達成 ・家庭学習学年×10 分の達成率 55.3% ・新体力テストを全学年で完全実施した結果、全学年男女 16 種目中 14 種目で全国平均以上 ・全国学力・学習状況調査・国語Ａ82%、国語Ｂ61% 算数Ａ74%、算数Ｂ61%理科70%(全て全国以上)
	○子どもが実感を伴う学びの日常化に向けた、教員の指導力向上の促進 ・「スタンダード６項目」の浸透・徹底 ・学習環境の整備 ・家庭学習を一体とした学習指導の徹底 ・胆振教育局指導主事、ＳＶの要請訪問 ・登別市教育委員会教育指導訪問 ・外部講師招聘 ・特別支援学校からの講師招聘 ・学校経営訪問における義務教育指導監からの助言	○職員、保護者、児童の評価結果の共通点を分析し、教育活動の改善に努めた。 ○通常の指導主事訪問に加えて、要請訪問を計３回実施し、校内研修の充実に努めた。	・指導主事訪問３回 ・特支 SV の訪問による指導３回 ・室蘭養護学校のパートナーティーチャーによる指導３回 ・学校公開日に外部講師と胆振教育局義務教育指導班主査、胆振教育研究所所員の招聘
人材育成	○重点の明確化及び学校力向上総合実践事業に基づく計画的な研修の実施 ・研修の効果を高めるための実務者会議の開催 ・初任段階教員研修に関わる重点の共有と具体的な実践 １年次　教科指導力、学級経営力 ２年次　学級経営力、生徒指導力 ３年次　地域との連携・対応力、チーム貢献力 ４年次　自己設定 ・日常的な授業参観とＯＪＴの推進 ○教育育成指標を踏まえた「教員研修計画」の作成 ・自校及び実践校の教員を講師としたテーマ別ミニ研修（現職研修）の実施	○実務担当者や管理職、一般教職員が授業研、模擬授業等に複数回参加し研修を深めた。 ○校内研修でワークショップ型研修を定期的に実施した。 ○幌別小学校の学校公開に全教員で参加し、研修を深めた。 ○実践校 2 校によるミニ研修を、実務者同士が情報交換等を密に実施した。内容も、保護者対応や通知表学習指導、集団づくりなど両校の中堅教諭を中心として、多岐にわたる内容を設定した。実施にあたっては近隣校の初任段階１年次教員の参加も受け入れた。 ○本校初任段階１年次教員の授業研に組み入れて初任段階２年次研修を受け入れた。	・校内研修を年間 20 回実施 ・授業公開年間９回 ・初任段階教員 1～4 年次の研究授業５回 ・２校合同のミニ研修９回(自校で５回) ・初任段階２年次研修の受け入れ１回

	○市内実践指定校と連携した学校公開の実施	○先進的な研究を本校研修に生かすため、地域連携研修主体校として中堅教諭２名を筑波大学附属小学校研究会に派遣した。また、その研修成果を学校公開の中で発表した。 ○元横浜市初任者アドバイザー野中信行氏を講師に迎え、示範授業を提供してもらうとともに、学校公開で教育講演の講師を務めていただいた。	・９月 26 日に学校公開を 114 名の参加者を得て実施した。
教育課程・指導方法等	■各教科の特質に応じた、見方･考え方を働かせた授業改善 ○全学年による標準学力テストの実施と、その効果的な活用 ○３,４年、５,６年での習熟度別少人数指導(算数科)の実施 ○退職人材活用事業講師による算数科のＴＴ指導の実施 ○子どもの表現力を育むための授業実践、定期的な研究協議の実施 ○日常授業の改善～「見通す」「振り返る」学習活動の重視 ○適切な反復による学習指導を実現するための小中連携による家庭学習強調週間の設定 ■新学習指導要領の趣旨等を踏まえた学校間の円滑な接続を意識した取組 ○登別市小中一貫教育（連携型）研究実践校として、子どもの学校生活への意欲向上に向けた取組の充実 ○小・中学校間の授業参観・交流 ・共通の視点をもった授業参観の実施 ・授業公開への参加、児童生徒の交流 ・子どもの意欲向上を目指した出前授業や乗入れ授業（参観）の実施 ・特別支援学級の相互参観、情報交流及び個別の教育支援計画、指導計画の活用 ○９年間の学び方系統性の相互理解 ア　９年間を見通した学習規律の確立及び学習のきまり系統表の活用 イ　校種間の学習指導に関する相互理解 ・授業を介した全体交流会の実施 ・テーマ別協議 ウ　学力調査の課題共有 ・課題検討委員会による共通題領域抽出と改善 ○家庭と連動した望ましい生活習慣形成 ア　学校と家庭で共に子どもたちに習慣化させたい項目の浸透 イ　９年間の連続性を踏まえた家庭学習の習慣化	○小中一貫教育推進協議会で、小中連携の取組の充実について協議し実践につなげた。 ○中学校区の学校の校内研修に職員を派遣して授業参観を行った。 ○児童が主体の交流活動を行った。 ○小中合同避難訓練は昨年の反省を生かし、充実させることができた。 ○小中全体交流会を８月と 12 月の２回実施することで、取り組みとその成果と課題を確認することが出来た ○１回目の全体交流会では、小中の授業交流や、分掌ごとに分かれることでポイントを絞った協議ができた。 ○２回目の全体交流会は、中学校の参観授業と講師を招いて不登校対策の講演会を行った。 ○全国学力・学習状況調査の結果を分析するとともに、全教員で今年度の問題を解き課題を共有した。また、31年度の予想問題についても研修で取り上げ、全員で問題を解くなどして課題を共有した。	・西陵中学校区小中一貫教育推進協議会３回 ・小学校から中学校への授業参観４回、中学校から小学校への授業参観７回 ・合同避難訓練１回、合同あいさつ運動２回（10 日間） ・全体交流会２回 ・小中共通の家庭学習強調週間の設定４回 ・中学校からの出前授業２教科

	○豊かな心を育む協働実践の試み ア　心の教育の推進 ・道徳の授業公開、児童生徒に関する交流 イ　小中協働の子ども主体の取組の推進 ・挨拶運動の実施、交通安全標語作り ウ　小中合同難訓練の実施 ○学校経営 ア　管理職による学校評価項目の見直し		
地域・家庭との連携	○コミュニティ・スクール事業の全体計画を更新するとともに、学校運営協議会による熟議を通して、学校と学校支援地域本部コーディネーターや教育委員会等との連携による具体的な活動の展開 ○学校運営協議会を年間３回開催 ○登下時の子どもの見守り活動の実施 ○地域住民による学習ボランティアを組織し、放課後学習サポートの実施 ○地域の専門家を講師とした体験的な活動の実施 ・土曜授業を活用した家庭、地域と一体となった取組	○学校運営協議会を３回実施し、コミュニティ・スクール事業を推進した。また、その中の１回は中学校と合同で行った。 ○地域の青少年育成協議会、ＰＴＡと連携して登下校の見守りを月１回実施して、児童の安全を見守った。 ○放課後サポート学習には11名のボランティアが集まり、４～６年の30名の参加児童に算数の勉強を教えた。 ○地域人材を活用した世代間交流、福祉体験授業、アイヌの人たちや文化に関する授業、スキー学習等を実施した。 ○土曜授業では全クラス道徳の授業公開やアウトメディア教室、長縄記録会等に多数の保護者が来校した。 ○指導部便り、学校便り等で正しい生活リズムやメディアの使いすぎの問題点の啓蒙を複数回行った。	・学校運営協議会３回実施 ・朝と帰りの見守り活動　朝13回、帰り13回実施 ・放課後学習サポート15回実施。出席率トータルで75.1% ・外部講師招聘全学年１回以上実施 ・メディア使用３時間以上の児童28.4% ・学校便りでのスマホの使用など生活習慣に言及した記事は15号中６号 ・ケータイスマホ教室 ５・６年で１回、３・４年で１回（保護者も参加延べ15名程度）

評　価	学校力向上に関する総合実践事業を継続して実施した幌別小では、人材育成をテーマに「メンター型人材育成システム」の研究を継続し、日常の授業改善と教師の授業力向上を目指した。また、今年度から実践主体校となった幌別西小では、子どもが実感を伴う学びの日常化に向けた授業づくり、「北海道における教員育成指標」を踏まえた人材育成の取組を中心として実践を重ねた。両校ともに、その成果を市内各学校に還元した。 登別市教育実践奨励校については、10 校が指定を受け、それぞれの実態に即した研究主題のもと、6 校が学習指導、4 校が道徳教育をテーマに取り組んだ。その成果を 5 校が広く公開し、研究の質を高め合うことができた。
今後の方向性	教育実践研究奨励校を指定し、各校の研究・研修活動を支援するとともに、幌別小学校と幌別西小学校が取り組む学校力向上に関する総合実践事業の成果が、市内各学校に還元されるよう促す。 また、登別市立学校における働き方改革基本方針に基づき、部活動指導に関わる負担の軽減や、勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実を促し、教職員が健康でやりがいを持って働くことができる環境整備に努める。

項　目	7　豊かな心の育成
点検内容	自然体験活動やボランティア活動などに取り組む関係団体や地域ボランティアの方々との連携を図りながら、生命を大切にする心、他人を思いやる心、美しいものに感動する心の育成に努める。 また、学校では「特別の教科　道徳」の趣旨を踏まえた「考え、議論する」道徳の授業への転換を踏まえ、円滑に推進できるよう環境整備に努める。

取組状況

○自然体験や社会体験、ボランティア活動等、豊かな心を育む体験活動（◇学校支援地域本部事業によるものや、外部指導者を招いての教室など、各項目に記載の内容と重複するものを含む）

幌別小	通年　全学年による学級園を中心とした栽培活動　3年生による花壇への花の移植、草取り 児童会活動として、リングプル・牛乳パックのリサイクル活動 4/12　交通安全青空教室(交通指導員の協力)　4/19　安全指導集会(講師：室蘭警察署員) 5～12月　幌中地区ふるさとふれあい農園活動　5/26 田植え　＊稲刈り･収穫祭は鹿の害のため中止 6/4　ハワイ児童との交流（4年）　7/4　2年 世代間交流　昔の遊び体験　15名の地域の方が協力 7/21　スマホ･ケータイ安全教室(5･6年)　講師：携帯電話会社担当者 8/24　ふぉれすと出前講座(5年)　9/14　邦楽鑑賞会 6年（登別三曲協会協力） 9/29　乗馬体験(学校支援地域本部事業) 10/3　アイヌ文化学習 4年（アイヌ文化活動アドバイザー協力） 10/6　3年社会科見学（ドーピー建設工業見学） 11/6 非行防止教室 5・6年(いじめ･ＳＮＳ･万引き･飲酒･喫煙･危険薬物)講師：室蘭警察署員 11/12　4年総合　見学学習（銀のしずく記念館）　11月　5年総合(福祉の学習) 11/29　5年総合　福祉体験活動(しんた21での施設見学・車いす体験) 12/5　5年総合 認知症キッズサポーター養成講座 2/5　6年卒業制作（健千窯の協力による陶芸）　2/19　スキー学習（5・6年）
幌西小	4/11　縄文出前講座 6年生対象　4/20　「交通安全教室」（全学年） 5/16　「校外班集会・集団下校」（全学年）　6/12 9/5 3/6　ふれあい清掃 7/10　FAO食育講演会　7/12　世代間交流 昔の遊び講座（2年） 7/13　邦楽鑑賞会 三曲協会による琴や尺八演奏指導（6年）　8/30 カルビー食育学習 9/6　「栄養教諭食育授業」（4年）　10/3　アイヌ見学学習(4年)　10/29 アイヌ文化体験学習 10/31　ふぉれすと鉱山学習（3年）　10/25 メグミルク食育プログラム（4年） 9/3.4 10/25　校内放送を利用した非行防止教室　11/6　「栄養教諭食育授業」（2年） 10/3 11/1.12 「福祉の学習（総合的な学習）」（5年） 12/2　第14回障害者週間記念事業で体験発表（5年）　1/30　リクシル・スポーツ義足体験(5年) 1/29 「認知症サポーターキッズ養成講座」（6年）2/13　「スキー学習」（5・6年）
鷲別小	4/13　縄文出前講座（6年）　6/20　安全指導集会（全学年） 6/24　食育指導（4年）　7/19　食育指導（3年）　7/10　世代間交流（1年） 8/31　ボランティア清掃（下校時の地域のゴミ拾い）児童会が企画（全学年） 9/18　アイヌ文化講座（4年）　9/27　ふぉれすと鉱山自然体験学習（2年） 10/11 幼保小交流（学芸会に鷲別保育所とリリー文化幼稚園を招待） 10/22 施設見学　クリンクルセンター（4年）　10/23 11/18 12/1　出前福祉講座（5年）

	12/1　携帯電話・インターネット安全教室（5・6年）　12/13 租税教室（6年） 1/25　邦楽鑑賞会（6年）　2/8　郷土資料館での学習（3年）　【通年】学級園の栽培活動
登別小	ベルマーク・リングプル回収（全学年）2/20.22.26.27　ベル・リン祭り（全学年） 学級園等での栽培活動（全学年）　4/27　交通安全青空教室(1.2.3.5年)　登別市交通安全協会 5/9　ふるさと農園でジャガイモの植え付け（2年）地域ボランティア参加 5/12　サケの稚魚放流（登別さけ・ます孵化場）地域支援本部事業 6/14　道新札響コンサート（5,6年） 6/26～7/31　小動物（ウサギ）とのふれあい飼育活動（主に1.2年） 7/7　ＯＭＢ地域行事参加（5,6年）　登別わくわく広場→雨天のため中止 8/22　認知症キッズサポーター養成講座（5年） 8/25　ふるさと農園収穫祭（2年）地域ボランティア参加 8/25　ＯＭＢ地域行事参加（5.6年）　地獄まつり→雨天のため中止 7/18　福祉体験学習（4年）登別市社会福祉協議会 10/1　登別中金管演奏会参加（全学年）　10/2　文化芸術巡回公演（6年） 10/13 サケの採卵体験（登別さけ・ますふ化場）地域支援本部事業 10/20 地域行事参加（3年）　登別地区チャリティー市民演芸会 10/27 ものづくり体験教室（モザイクアート教室）地域支援本部事業 11/6　北海道警察音楽隊演奏会（全学年、保護者、地域住民） 11/30　福祉体験学習（3年）　登別市社会福祉協議会 12/1 ＯＭＢ定期演奏会5・6年　1～4年・保護者参観 12/14　人権教室（4年）　人権の花運動感謝状贈呈式（2年） 2/1　豆まき集会～いじめ撲滅や交通安全に対する標語作成（全学年） 2/4　世代間交流（1年）　地域ボランティア参加 2/19　不審者対応訓練・携帯スマホ安全な利用について（全学年）講師：室蘭警察署署員
富岸小	5/7～13 10/27～11/2　「ケータイ・スマホ３つのルール」強調ウィーク 5/12　命を守る学習 防犯教室 集団下校　5/25　人権の花　花植え（花壇） 春～秋 花壇や学年園、生活科での栽培活動　ふれあい農園活動（畑の先生）2年・特別支援学級 6・7・11・12月 児童会活動によるいじめ防止のためのあったか富岸小運動 6/19　世代間交流 1年生　昔の遊び講座　7/2　人権図書受け取り 7/10　エネオスわくわく環境教室　5年　7/20 8/21 栄養教諭食育授業6年・2年 8/31 10/24 キウシト湿原学習 3年生 年2回実施 湿原観察や外来植物の駆除 9/3収穫祭　9/25　芸術鑑賞（観劇）　9/11　クリンクルセンターとアイヌ民族博物館見学 4年生 11/17　PTA祭り　10/29 認知症サポーター講座　5年 1/19　親子もちつき大会・緑中吹奏楽部演奏鑑賞・和太鼓 ZINKA 演奏鑑賞 2/7.12　スキー学習5年・6年　2/8 邦楽鑑賞会(6年　三曲協会) 2/12　福祉授業発表会(総合的な学習　福祉協会ゲストティーチャー来校) 通年　亀田公園での自然体験活動、玄関ホール・各教室での飼育活動、牛乳パックリサイクル
幌東小	児童会によるリングプルの回収、児童会による「いじめをなくすための取組」(各委員会 1～2 回実施)、学級園を中心に栽培活動と学級花壇のお世話（5月～10月） ふれあい農園 5/26 田植え 10/6 稲刈り～中止　収穫祭～中止 郷土芸能「幌別駒踊り」の継承（全校児童） 8月～11月に月1回練習　12月幌別地区市民演芸会参加（全校児童） 12/23 文化大集会（キッズパワーフェスティバル参加（4～6年児童）

	6/13　マクドナルドによる防犯教室（1～3年児童） 6/18　1･2年世代間交流「ふれあい集会」（地域お年寄りとの交流） 6/26　文化芸術子ども劇場　ワークショップ参加（6年生）　3/2　ステージ出演 7/25　校外班による校区のクリーン作戦（清掃活動） 10/3　3年 ドーピー建設工業やカント・レラ、地獄谷見学（温泉入浴体験に合わせて） 10/27　5年生認知症サポーター授業（土曜授業） 11/3　鉄南地区文化祭参加「東小マーチ」披露・全児童の作品展示
若草小	通年　児童会によるリングプル回収、牛乳パックリサイクル 通年　学級・学年の小動物・昆虫等を廊下で飼育し、他の学年も触れ合える場としている 通年　児童会による「読書の木」の活動において、「読書の木」を職員室前に掲載することにより読書への意欲喚起を図る 2学期　児童会による「友達をたくさんつくるには」の活動～各自が思いや考えなどを書いた紙を貼り、掲示する（いじめ防止・豊かな心の育成） 4/23 「ふれあい農園石拾い」（1・2年） 5/2 「町会下校指導：出会いのつどい」　月2回程度1・2年生の下校を引率してくれる地域の方々とのふれあいの場（3/6 「感謝のつどい」実施） 5/9　自動車学校での交通安全の体験学習(1・2年生)　5/10 3・5年　5/11 4・6年生 5/10 「ふれあい農園」（1・2年生）地域の方々とジャガイモ苗植え 9/5収穫　9/19収穫祭 5/25 「遠足」（1～4年）　6/1 「環境美化（花植え）」（1年生） 7/6 「世代間交流」(2年生)　昔遊びの体験・給食での交流 8/29.30 ふれあい合宿（5年生）　9/15　若草小地域交流祭り　地域の方々との触れ合いの場 10/2 「芸術鑑賞」(6年生)　10/18 「温泉入浴体験」(3年生) 11/3　町内会文化展　5会場(若草・美園・美園南・旭が丘・鷲別地区)に児童の作品出展 11/5 「美化デー」（全校）　11/6 「総合学習　昔遊び」(3年生）地域の方々とのふれあい 11/10 ふれあい活動昔遊び（全校）　11/21.22「栄養教諭による食育指導」（1・5年生） 12/5.6 「栄養教諭による食育指導」(3・6年生) 12/12.18 「福祉出前講座」(4年生)　車いす・点字の体験、視覚障害者の生活体 12/13 「カルビーによる食育出前授業」(4年生) 1/18 「邦楽鑑賞会」(6年生)　三曲協会による琴や尺八演奏指導 2/21 ミニコンサート　6年奉仕活動　3/1　感謝の集い（6年生）
青葉小	牛乳パックやリングプルの回収・地域の方を講師に招いてのクラブ活動 4/25　交通安全教室（交通指導員の協力）　全学年 5/12　キウシト湿原の会の方による出前授業　4年生 ふれあい農園　2年生種イモ植え　9/14 収穫祭（「畑の先生」招いて感想発表） 5/17　ケータイ・スマホ教室　4～6年生　7/18 11/1 キウシト湿原での自然体験学習　4年生 9/5　世代間交流 1年生 昔の遊び体験後、地域の方と給食交流 9/14　登別の産業（ドーピー建設)、登別の歴史（郷土資料館）訪問 3年生 9/18　芸術鑑賞会・劇（マーレと雨姫）　9/27　地域の施設見学（クリンクルセンター、浄水場） 10/2　文化芸術鑑賞会（6年生）　10/24　2年生見学体験学習（バス乗車　図書館・駅） 11/8 製鉄体験(火伏せの儀式や鉋出し)　2/14 鉄の精錬体験 11/13　新日鉄住金見学（5年生)・・現代の製鉄技術 12/14　クラブ感謝の会　4年生以上　講師の方に代表から感謝の手紙贈呈 1/18　陶芸指導(6年生)「健千窯」 1/22　虎杖浜水産工場たらこ詰め体験 、仙台藩白老元陣屋資料館見学　(4年生)

	2/4　登別の食産業　3年生　望月製麺・道南食品での見学と体験学習 2/18　視覚障害者による出前授業(6年生)　認知症サポート講座(5年生) 3/8　邦楽鑑賞会　6年生
幌別中	4/16　携帯スマホ安全教室（全学年）　4/26　デンマーク国駐日大使講演 5/13　登別こいのぼりマラソン手伝い～演奏、給水、タグ受け取り ふれあい農園 5/26 田植え 62名参加　稲刈り収穫祭はシカの食害で中止 7/3　社会を明るくする運動伝達集会　7/4.5 救命救急講座２年生　登別消防署 7/9　喫煙防止講座　室蘭警察署 8/25　介護付有料老人ホーム セ・ジュネス祭（ボランティア部手伝い） 9/8　地域との合同避難訓練→震災で中止　9/28　学校祭行灯行列　社会を明るくする運動 10/1　吹奏楽部演奏会（幌別東小、幌別小） 10/17　２年職業体験（セ・ジュネスでの入所者との交流、三愛病院での社会体験） 11/7　心に響く道徳教育　講師　成田郁久美 11/10　命の大切さを学ぶ教室　講師　白倉裕美子　さん 12/15　２年認知症サポーター養成講座　12/19　薬物乱用防止講座　講師：室蘭警察署員 12/26　もちつきボランティア　セ・ジュネスボランティア局訪問 3/21　地域教育協議会音楽を楽しむ会（生徒玄関ホール）
鷲別中	通年　生徒会によるペットボトルキャップ、書き損じはがきの回収→海星学院に届けワクチン支援 などに協力　全校で不要品を出品、学校祭バザーで販売しダルニー奨学金を捻出 4/12 3年による通学路清掃　4/15　ボランティア部による地域清掃活動 5/26　花壇の土おこし　6/2　花壇の花苗植え 6/28　生徒会による生活向上集会 生活向上週間を事前設定 各委員会の取組実施 7/20　携帯安全教室（ＮＴＴ） 10/10　「命の大切さを学ぶ教室」実施（交通死亡事故被害者遺族による講演） 12/13　「いのちをいただく」の朗読劇（チームいちばん星）による「命の授業」実施 1年 10/3　日本工学院北海道専門学校教師の講話（職業観等） 10/23　鷲別・若草地域探索（事業所訪問） 2年 10/12 市観光振興グループによる講演　10/23 温泉の各施設で職業体験（観光体験学習） 3年 10/24～26 3年保育実習（鷲別保育所）　3/7　誕生学講話（性教育） ギター・マンドリン演奏 9/17 若草地区敬老会　10/28 鷲六園　11/3 鷲別地区文化祭 11/15 オータムコンサート
登別中	4/13　携帯・スマホ安全教室（KDDI）　6/4　1年 洞爺湖有珠山ジオパークでの見学学習 7/7　わくわく広場祭典　吹奏楽部演奏　7/12　いじめ撲滅集会 7/13　思春期教室（性教育講座）妊婦体験 7/21　校下の清掃奉仕活動（町内クリーン作戦）による地域の環境美化 8/24　ＪＲ登別駅で熊舞披露（外国人観光客向けに英語で紹介） 8/25　地獄まつり参加　鬼みこし運行、熊舞披露、吹奏楽演奏実施 外国人観光客に向けて英語や中国語で紹介 8/30　2年　救急救命講習　9/13　3年　幼児とのふれあい体験（コロポックル） 10/18.19 2年 職場体験 校区の事業所中心に2日間実施 11/10　土曜授業　1年：命の授業（教頭）3年：薬物乱用防止教室（辻弘之氏 登別地区保護司） 12/5　熊舞引継ぎ式 12/19　2年　認知症キッズサポーター養成講座（地域包括支援センター）

	3/15　お茶の間会議 地域の方と1年生がまちづくりについて意見交換 【通年】熊舞保存会による指導
西陵中	7/13　いじめ撲滅集会（生徒会主催）　7/21　校区内清掃活動 11/7　海星学院生を招いての震災ボランティア報告会(１年学年道徳) 10/30 2年生職場体験～15事業所　11/28 1年生職場訪問～新日鉄住金、室蘭工業大学 12/10 2年生思春期教室～誕生学講座　講師：公益財団法人たん学協会認定講師 12/11 2年生認知症サポーター養成講座 【通年】生徒会による書き損じはがきやペットボトルキャップ、リングプルの回収
緑陽中	ボランティア部による富岸子育てひろばでの幼児とのふれあい活動（毎週土曜日） 生徒会によるリングプルの回収　年2回委員会活動強化週間(RSC週間)設定 6/6　生徒会中心に「いじめ０運動集会」自作のビデオ寸劇やいじめ撲滅宣言実施 7/6　1年自然体験学習（ふぉれすと鉱山）　7/9～13 11/26～11/30　生活改善週間設定 7/18　生徒会校区ゴミ拾い　7/20 交通安全活動　10/11 2年生職業体験　10/10 2年生思春期教室 10/23.25.30 11/1 3年生160名保育実習　1/17　2年生認知症サポーター養成講座 3/25　仲良しコミュニケーション月間集会

○「生命尊重･思いやりの心を育てる人権教室」

6/21 幌東小２・４年　9/20 青葉小５年　11/22 幌西小２・４年　12/8 登別小４年　12/18 若草小４年

評　価	豊かな心を育む体験活動については、主に総合的な学習の時間や道徳の授業において、本市の豊かな地域資源や人材を生かしながら、実体験を重視した実践を継続、発展させることができた。 「特別な教科　道徳」の実施に向けては、各学校の道徳教育推進教師を中心に準備を進め、教育課程課題検討委員会での共通理解をもとに、各校の取組の充実を図った。
今後の方向性	登別温泉やキウシト湿原、ふぉれすと鉱山など地域資源を活用した体験活動や、道徳教育推進教師を中心とした「特別の教科　道徳」の時間の充実を促し、生命を大切にする心や思いやりの心、郷土を愛する心など、児童・生徒の豊かな情操を育む。

項　目	8　体力向上
点検内容	一校一実践の取組の推奨やスポーツ指導員の派遣事業を実施し、学校体育の充実と運動の習慣化が進められるよう支援する。食育に関しては、栄養教諭を中心に学校の教育活動全体を通して食に対する正しい知識と望ましい食習慣が身に付くよう、指導の充実に努める。

取組状況

○平成 30 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果と分析（実施時期：平成 29 年 6～7 月）

小学校　5 年男子

	実施数	身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm	反復横とび(点)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ソフトボール投げ(m)	体力合計(点)
全国	529,820	138.9	34.2	16.5	20.0	33.3	42.1	52.2	9.4	152.2	22.2	54.2
北海道	12,825	139.5	35.7	17.4	19.9	33.2	42.8	49.8	9.7	152.2	22.8	54.0
H30登別	200	139.1	34.7	17.1	21.5	37.8	43.1	55.7	9.6	159.0	22.6	56.4
H29登別	227	139.7	35.7	16.7	21.5	36.3	43.2	53.9	9.7	153.4	23.5	55.2
H28登別	189	138.9	34.6	16.2	20.3	40.4	41.6	50.0	9.6	154.7	21.7	54.8

小学校　5 年女子

全国	507,706	140.1	34.0	16.2	19.0	37.6	40.3	41.9	9.6	145.9	13.8	55.9
北海道	12,460	140.9	35.3	17.0	18.7	37.4	41.0	39.3	9.8	145.9	14.3	55.6
H30登別	182	140.6	34.8	16.8	20.1	42.9	40.8	43.1	9.8	153.3	15.4	58.4
H29登別	171	140.7	35.0	16.1	19.6	39.9	41.2	42.9	9.8	149.6	15.2	56.9
H28登別	169	140.5	35.1	16.3	18.3	42.9	40.0	37.8	9.7	148.5	14.6	56.2

中学校　2 年男子

	実施数	身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm	反復横とび(点	持久走(秒)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ハンドボール投げ(m	体力合計(点)
全国	465,944	160.0	48.6	28.8	27.4	43.4	52.2	392.7	86.1	8.0	195.6	20.6	42.3
北海道	12,730	161.2	50.7	29.9	26.8	41.9	51.0	407.4	81.3	8.2	195.6	20.5	41.3
H30登別	167	160.5	49.0	28.7	26.5	45.8	51.4	382.3	88.0	8.3	196.4	19.2	42.1
H29登別	223	161.2	50.2	29.1	26.6	44.0	49.3	410.2	85.8	8.2	191.1	19.7	40.6
H28登別	168	161.8	49.6	29.2	26.1	42.0	52.0	394.2	75.8	8.1	197.6	19.8	40.0

中学校　2 年女子

全国	448,231	154.9	46.6	23.9	23.9	46.2	47.4	286.9	59.9	8.8	170.3	13.0	50.6
北海道	12,287	155.3	47.4	23.8	22.1	44.6	45.6	304.7	52.3	9.0	165.6	12.5	47.2
H30登別	153	155.7	47.5	23.3	20.7	47.7	46.0	281.5	56.6	9.1	167.9	12.3	47.8
H29登別	174	154.7	46.7	23.4	20.5	43.8	44.4	331.0	59.2	9.2	164.8	11.8	45.1
H28登別	165	155.4	47.2	22.6	19.4	45.2	44.2	303.6	44.0	9.3	156.7	11.7	42.8

小学校男子～体力合計は、全国水準以上。４年連続全国水準を維持。種目別では、50ｍ走除く全てで全国を上回った。総合評価Ａの割合は 20％を超え、全国と比べて高い。下位層も減少。

小学校女子～体力合計は、３年続けて全国水準以上となる。種目別では、男子同様 50ｍ走除く全てで全国平均を上回った。総合評価Ａの割合は 20％を超え、全国と比べて高い。下位層も減少。

中学校男子～体力合計は、全国と比較して 0.3P 低いが全国水準。長座体前屈やシャトルラン、立ち幅跳びで全国を上回った。反面、50ｍ走やハンドボール投げで昨年に比べて低くなり、走力・投力に課題あり。

中学校女子～体力合計は、全国平均と比べ2.6P低いがやや改善傾向。長座体前屈、反復横とび、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げで改善傾向。反面、上体起こし、50m走は依然課題あり。

○体力向上一校一実践内容

幌別小	長縄記録会（全学年 7・12月）全校で記録会実施 幌小っ子タイム（全学年6～7月・10～11月）学級ごとに目標を設定し長縄にチャレンジ なかよし元気っ子タイム（全学年6～1月）業間の集団遊びを通しての体力向上 短縄（全学年 通年）記録カードをもとに練習。7月にチャレンジタイム設定 体力テスト講習会（教職員 6月）保体部中心に体力テストの正しい実施方法確認
幌西小	長縄跳び大会（全学年 12/1）学級で休み時間に練習。連続跳躍回数を競う。 持久走記録会（全学年9/28）個人で休み時間に練習。個々の目標に応じた距離を走る。
鷲別小	マイペースランニング（全学年10月16～23日）グラウンドにコース設定。走った周記録 なわとび記録会（全学年11月30日　前3週間練習）がんばりカードを活用して意欲化。
登別小	なわとび（全学年 通年）自己目標を設定　体力づくりの時間に取り組む。 前期:９０秒間持久跳び　後期:長縄跳び　※どさんこ元気アップチャレンジ登録 長縄発表会（低：12/14　　高：12/20）　２月全校遊び（リレー） すもう（全学年 5～9月）体育の時間に実施　夏・秋場所を設定する。 マラソン（全学年 8～9月）自己目標を設定　体力づくりの時間に取り組む。 スキー（全学年 1～2月）裏山(主に1.2年使用)　スキー場(1.2年1回、他2回)
富岸小	なわとび道場（全学年　通年）毎朝のなわとび実施　　短縄大会（全学年　6月） マイペースマラソン（全学年　9月）　長縄大会（全学年　12月） とんけし運動広場（おにスポ主催）
幌東小	どさんこ元気アップチャレンジ「２０ｍシャトルラン」「短縄跳び」全校児童エントリー 全校児童「新体力テスト」の実施 校内体力づくりの実施～①タイムにチャレンジ　②ソフトボール投げ選手権 ③短縄跳び選手権　④長縄跳び選手権
若草小	なわとび　休み時間に「なわとびカード」の名人を目指して取り組む（5月～10月） 「短縄記録会」(9月)、長縄記録会（1月）の開催
青葉小	長縄跳び(全学年6～2月)学級ごとに取り組む。　9月・2月記録会実施　9月縄跳びミニ研修会
幌別中	長縄跳び（全学年 5～6月）陸上記録会に合わせた体力づくり　昼休みに時間設定
鷲別中	体育専門委員会によるドッジボール大会（後期）実施（各学年内のクラス対抗） 長縄跳び（全学年 12月）体育科で実施。制限時間内で跳んだ回数を学年内で競う ダンス（1・2年　2月）ヒップホップダンスを、講師を招いて実施する
登別中	導入5分間アップ(全学年・通年)授業導入時筋トレ、コーディネーショントレーニング実施 体力アップイベント(全学年)バスケットボールなど生徒による企画と実行 ダンス指導（全学年）インストラクターによる指導
西陵中	9/5 ダンス講座（全学年）…文化・スポーツ振興財団「ダンスレッスン派遣事業」 ダンス（全学年9月）学校祭でヒップホップダンスをクラス単位で発表(コンクール形式)
緑陽中	ダンス指導（1・2年生 3学期）クラス単位で発表 長縄跳び（全学年　3学期）　長縄跳び大会（3学期末　学年ごとに実施）

○体育コーディネーターの活用による体育授業及び体力向上の支援(子ども健康・体力改善事業)

委託先　ＮＰＯ法人「おにスポ」市内全小学校にスポーツ指導員を1校あたり年間279時間以上派遣。

※ 7校：7.75時間×36日＝各279時間　1校：7.75時間×37日＝286.75時間

派遣内容　①「体育の授業」質向上支援～・柔軟性・俊敏性を養う動きを取り入れた準備運動の導入。
②実技の手本を見せ、児童へ体の動かし方やコツ、練習のポイントのアドバイスを実施。
③準備運動で、単位時間の中で行う運動に必要な筋肉を使う体操を導入。
④体力向上を図る取組の支援～・おにごっこや球技を取り入れた遊びへの参加を積極的に児童に声かけすることで、運動への意欲の向上を図るとともに、運動不足の解消、持久力、瞬発力を高められるような取組を行った。
⑤新体力テストに関する指導補助

○栄養教諭による食育・給食指導

・勤務校での指導状況

幌別小　1年　10/18 給食を楽しく食べよう　11/28 食べ物を大切にしてきちんと食べよう
2年　8/31 何でも食べよう元気に大きくなろう　9/14 はし使いの名人になろう
3年　12/17 すききらいをしないで食べよう　2/25 健康になる生活リズムを考えよう
4年　6/27 朝ごはんのよさ、働きを見直そう 12/12 バランスを考えて食べよう
5年　10/21 バランスを考えた食事をしよう　11/26 おやつの取り方を見直そう
6年　7/23 朝ごはんパワーアップ大作戦　2/28 成長期の食事を考えよう

幌別東小　1年　6/20　おはし名人になろう　2年 12/18 何でも食べよう元気に大きくなろう
3年　10/22　早寝・早起き・朝ごはん　4年 9/25 カルシウムの働きを知ろう
5年　8/28 五大栄養素について知ろう　6年 1/25　満点給食メニューを考えよう
※ 給食指導～毎日学級訪問　食育教室の充実～年間通して児童が学べる空間の確保

・派遣先での指導状況

幌西小　9/6 4年学級活動（食育指導）　11/6 2年学級活動（楽しい食事）
若草小 11/21 1年特別活動給食を楽しく食べよう　11/22 5年特別活動（食品添加物について）
登別小　10/31 5年（栄養素の働きについて）　10/24　2年　給食の主な栄養素について
青葉小　11/14 2年学級活動（何でも食べよう）　11/21 4年学級活動（カルシウムの働き）
鷲別小　7/19 3年（好き嫌いをしないで食べよう）　6/29 4年（丈夫な身体をつくろう）
富岸小　7/20 6年（食事と健康について考えよう）　8/21 2年（何でも食べよう）

評　価	全国体力・運動能力調査の結果は、小学校男子で4年連続、女子で3年連続全国水準を上回るとともに、中学校男子で全国水準とほぼ同程度、女子で前年度より改善の傾向が見られ、全国平均との差は確実に縮まっている。これは、一校一実践の取組に加えて、新体力テストに全学年・全教職員で取り組むなど、学校をあげて体力の向上に取り組む気運が高まってきたことも要因の一つと言える。また、学校とスポーツ指導員の連携が深まっており体育授業の質そのものが向上している。
今後の方向性	全国体力・運動能力調査の結果に基づく一校一実践の取組を推奨するとともに、スポーツ指導員の派遣を通して運動に親しむ意識が高まるように努める。 また健康教育では、「早寝早起き朝ご飯」の啓発活動や、望ましい食習慣の形成を図る食育の指導、性教育や薬物乱用防止に関する指導などの充実を促す。

項　目	9　特色ある教育活動
点検内容	地域の自然や特性を活かしたスキー授業や温泉入浴体験、環境学習など取組を支援していく。

取組状況

○「スキー授業」　　市内の小学校８校の児童、延べ938名が参加。
幌別小73名 2/19　幌西小106名 2/13　幌東小26名 2/15　青葉小107名 2/6　鷲別小95名 2/22
若草小92名 2/14　富岸小5年88名 2/7　富岸小6年84名 2/12　登別小267名 1/18.22.25.31 2/5

○「温泉入浴体験」　330名参加　市内小学校全8校の3年生対象に実施。
幌別小40名 9/5登別グランドホテル（地獄谷、温泉街、カント・レラ、ボランティアガイド活用）
幌西小51名 9/20ホテルまほろば（ドーピー建設工業、地獄谷、温泉街、ボランティアガイド活用）
幌東小20名 10/3御やど清水屋（ドーピー建設工業、地獄谷、カント・レラ、ボランティアガイド活用）
青葉小39名 9/25登別万世閣（地獄谷、足湯体験、ボランティアガイド活用）
鷲別小42名 9/21パークホテル雅亭（地獄谷、カント・レラ）
若草小53名 10/18第一滝本館（郷土資料館）
登別小25名 9/4ホテルゆもと登別（地獄谷、温泉街、ボランティアガイド活用）
富岸小60名 9/13登別石水亭（コンクリート工場、地獄谷、ボランティアガイド活用）

○環境学習　　各小中学校～ふれあい農園等で野菜などの栽培と収穫。花壇での栽培。
全小学校4年～クリンクルセンター見学　　牛乳パックのリサイクルを行っている学校　6校
ＰＴＡや児童会・生徒会の呼びかけで、ペットボトルキャップ・リングプル等を回収
多くの学校で地域清掃や通学路清掃を実施
富岸小3年、青葉小4年～キウシト湿原で体験学習（夏と秋）湿原の散策や水辺の生き物の観察

評　価	スキー授業と温泉入浴体験は、全８校での実施を円滑に進めることができた。とくに、温泉入浴体験にあわせて地域の自然や歴史、産業の学習に取り組む学校が多く、多様な施設を訪問するなど活発な活動を展開している。今後は、キウシト湿原などの地域素材を積極的に活用することができるよう、環境整備を更に進める必要がある。
今後の方向性	引き続き、地域の自然や特性を生かしたスキー授業や温泉入浴体験、環境学習などの取組を支援し、登別のよさを体感できる機会の充実に努める。そのために、地域の教育資源の一層の活用を促していく。

項　目	10　安全指導
点検内容	児童・生徒が状況に応じて適切に行動できるよう、地域の方々や関係機関との連携による安全教室や防犯教室、避難訓練などの活動を支援する。 また、犯罪やトラブルに巻き込まれない力を身に付けるため、情報モラル教育や消費者教育などの取組を促す。 通学路については、登別市通学路交通安全プログラムに基づき、通学路の危険箇所の合同点検や道路管理者による改善などの進行管理を行い、登下校の安全確保に努める。

取組状況

○交通安全指導

小学校～入学前、学校説明会で通学路地図を保護者に手渡し、実際に保護者と歩くことを推奨。新学期に合わせ交通安全教室実施。入学後、教職員による登下校指導や自転車の実地指導実施。

中学校～新学期に合わせ交通安全教室実施。自転車通学を認めている学校ではパンフレット等作成し指導を重ね、安全意識啓発。

○防犯教室

幌別小	4/19　安全指導集会(不審者対応等　講師：室蘭警察署員)
幌西小	7/18　不審者対策避難訓練（学校侵入者への対応と児童避難）講師：室蘭警察署生活安全係
鷲別小	6/21　安全指導集会（ネット利用の危険性について）講師：室蘭警察署員 対象：全学年 11/6～8　放送による非行防止教室（非行防犯に関するインタビュー） 講師：室蘭警察署員 対象：全学年
登別小	2/19　不審者対応訓練・携帯スマホ安全な利用について（全学年）講師：室蘭警察署署員
富岸小	5/12　命も守る学習　不審者に遭遇した際の対処の仕方（全学年）
幌東小	6/25　不審者対応避難訓練 教員が不審者役を演じスタディちゃんの家（東保育所）に実際に逃げる訓練を行う。
若草小	9/26　不審者が侵入した際の避難訓練を実施　　10/27 ケータイ・スマホ教室
青葉小	5/17　ケータイ・スマホ教室　ｅネットキャラバン　・　7/23 防犯教室（薬物等）室蘭警察署
幌別中	7/9　喫煙防止講座　講師：室蘭警察署員　対象：全学年
鷲別中	2/21 室蘭警察署員による薬物乱用防止に関わる講話の際にお話をいただく　対象：3学年
登別中	携帯スマホ教室や薬物乱用防止教室等の講話に合わせて講師からお話をいただく
西陵中	11/28 薬物乱用防止教室(３年学年道徳)
緑陽中	全学年・保護者対象の帯・スマホトラブル防止教室（LINEから職員を講師として）

○情報モラル教育～インターネット安全教室

幌別小	7/21　5･6年対象　スマートフォンや携帯電話の利用方法・マナーについて学ぶ。保護者向けにも実施。講師：携帯会社契約社員
幌西小	11/10 ケータイ安全教室として5・6年生にはＫＤＤＩ,3・4年生にはEネットキャラバンから講師を招いて、携帯やスマホの安全な利用法やネットトラブルなどについて、講演を実施。全校参観日で保護者、学校運営協議会委員も参加。
鷲別小	12/1　5,6年対象 情報モラルについて 講師：ＬＩＮＥ職員講師
登別小	2/19　携帯スマホ安全な利用について（全学年）講師：室蘭警察署署員　（保護者参加） 実際の被害事例に基づき、危険性と安全な使用の仕方についての講話。
富岸小	5月第2週､10月第1週　3つのルール強調ウィーク実施。 お昼の放送を使っての啓発（室蘭警察署）　10/27 スマホ安全教室（室蘭警察署）
幌東小	5/23　4年生以上対象　スマートフォンやケータイの安全な使い方や、著作権等の指導について 講師：ＮＴＴドコモ職員
若草小	5/7　火災避難訓練　8/25 若草町内会と合同津波避難訓練　11/8・11/15 立ち止まり避難訓練
青葉小	5/17　4年生以上対象 携帯・スマホ教室　講師：Ｅネットキャラバン
幌別中	4/16　全学年対象　正しい使用の具体例を示した講話
鷲別中	7/20　スマホ等安全な使い方やモラル・マナーについて 全学年 講師：ＮＴＴドコモ職員 10/25 スマホ携帯の危険性について　新入生保護者説明会にて新入学生保護者対象 講師：室蘭警察署員

登別中	4/13　携帯スマホ安全教室（講師：KDDI社員）
西陵中	7/24 10/23 12/11 2/5（全４回）小中学校の校内放送を活用した非行防止教室（室蘭警察署） 11/17 携帯スマホ安全教室（全学年対象）講師：お助けネット代表　中谷通恵さん ネットトラブルの実例紹介。ＳＮＳでは受け取る側の気持ちを考える等を確認。
緑陽中	4/21　PTA総会時に学校長より保護者へのスマホ・携帯使用の指導について確認 10/27 保護者・生徒対象スマホ、SNSトラブル防止教室（LINEから職員を講師として）

○インターネット使用に関わる指導や啓発の取組

①小4から中3まで、ゲーム機やスマートフォン等インターネット機器に関する調査を年1回(5月)実施。

②結果を受け、市P連・市校長会・市教委で話し合い、市全体での指導の方向性を確認。各学校では「ケータイ・スマホ3つのルール」に基づき、児童生徒への指導や保護者への啓発を強化。学校運営協議会で協議する場面も多く見られた。

③北海道消費者協会　北海道立消費生活センター　事業専門教育啓発部長（田原氏）・グループ主幹（道髙氏）から、ネット利用による健康被害について、市教委において説明を受けた。説明内容は、校長会において情報提供を行い、各学校をはじめ、市民に広く周知することとした。特に指摘のあった乳幼児を持つ保護者へのアプローチを検討していく。

④登別市ＰＴＡ連合会が主催する講演会（ＮＰＯ法人お助けネット代表　中谷通恵氏）に保護者の参加を促進。各学校で内容を還元するよう、校長会・教頭会等で周知徹底を図った。

※「自分専用のインターネットが使用できる機器の所有率」　平成30年5月調査結果（スマホ所有率）

小4　70.6%　小5　82.5%　小6　85.0%　中1　88.9%　中2　89.5%　中3　87.8%

（14.7%）　（22.5%）　（29.5%）　（47.8%）　（65.1%）　（63.1%）

「1日の使用時間が3時間以上の割合」

小4　9.0%　小5　15.1%　小6　13.7%　中1　14.3%　中2　14.8%　中3　19.6%

○ネットパトロールによる取組

道教委委託から情報提供に基づき、その状況に応じて全体あるいは当事者に指導し、保護者に協力を求めた。平成29年度の情報提供の数は8件。対応し解決した数は8件。

○避難訓練

学校名	取　組　内　容
幌別小	避難訓練(地震・火災)　5/2 教室から避難　9/17 休み時間の避難 簡易避難訓練(通年)　地震・火災等を想定した初期動作の確認 集団下校訓練　学期１回　校外班ごとによる下校訓練 9/4　津波発生時の避難訓練実施 幌別中まで一斉避難
幌西小	5/11　火災想定避難訓練 8/25　小中合同避難訓練　大地震を想定しグラウンドから望洋公園までの１kmを中1と小2、小1と小6が手をつないで避難。
鷲別小	6/5　小中合同避難訓練（地震による津波想定）小学生は3・4階、中学生は屋上避難。 火災想定避難訓練(9/26予告あり　10/3予告なし)
登別小	5/15　火災避難訓練　7/18　立ち止まり訓練（中休み） 9/27　地震津波避難訓練(高台避難：時代村社宅まで)　12/11 立ち止まり訓練(中休み)
富岸小	4/19　地震・火災時の避難経路確認　6/26 中休み避難訓練 9/1　小中一貫・ 地域連携避難訓練(津波避難) 亀田公園まで避難 富岸町内会による避難誘導協力

幌東小	4/26　火災避難訓練　6/25　不審者対応避難訓練（室蘭警察署、地域の方の協力） 9/8　鉄南連合町内会・幌別中と連携した地区避難訓練を実施 幌別中まで避難～胆振東部地震発生により中止 10/24 地震・津波を想定した避難訓練　幌中まで避難 2/7　津波を想定した避難訓練　工学院女子寮ドミトリーまで避難
若草小	5/8　火災避難訓練　8/26 若草町内会と合同津波避難訓練　11/9.16 立ち止まり避難訓練
青葉小	5/9 火災対策避難訓練　9/2 地震・津波想定避難訓練(地域合同)
幌別中	5/23　火災避難訓練 9/8　震災のため中止　幌東小と合同で地域による大津波避難訓練を実施　幌別中が避難場所
鷲別中	6/5　避難訓練(地震･津波)　登別市立鷲別小学校屋上まで避難（小中同日避難訓練実施） 10/5　避難訓練(地震･火災)
登別中	5/2　火災を想定した避難訓練　9/27 地震津波を想定した高台避難訓練
西陵中	8/29　地震・津波を想定した避難訓練を幌別西小と合同で実施。 大地震と大津波を想定した避難行動。小中合同での高台避難と事後指導を実施した。 10/17 火災想定の避難訓練
緑陽中	5/9　火災避難訓練　9/1　小中・地域合同避難訓練（津波）各町内会の避難場所の確認

○薬物乱用防止教室

幌別小	11/6　5・6年 危険ドラックの恐ろしさについて室蘭警察署員による講話
幌西小	11/15 6年 薬物の恐ろしさ等について、室蘭警察署員による講話
鷲別小	6年　シンナーや麻薬の恐ろしさについて、担任による指導
登別小	薬物乱用防止に関する資料等を活用し学級担任が保健の時間に指導
富岸小	2/26　6年 室蘭警察署員から薬の恐ろしさと使用は絶対にいけない旨の講話（喫煙も含む）
幌東小	11/1　飲酒や喫煙、薬物乱用の防止について室蘭警察署員による講話
若草小	関係機関資料活用による学級担任からの指導
青葉小	7/23　3年 防犯教室（薬物の恐ろしさと、犯罪との関係について）　講師：室蘭警察署員
幌別中	12/19 全学年対象　室蘭警察署生活安全課職員による、薬物全般に関する講話
鷲別中	2/21 室蘭警察署員による薬物乱用防止に関わる講話
登別中	11/10 3学年 登別中ＰＴＡ会長による講話～薬物乱用の危険性
西陵中	11/28 3学年 室蘭警察署員による、薬物全般に関する講話
緑陽中	3学期 学級ごとに保健体育で薬物乱用防止教室を実施

○通学路の安全

・危険箇所の把握と改善～各校から通学路危険箇所の報告を受け、通学路安全推進協議会協議会で確認。現在の通学路安全プログラムに基づく危険箇所は26箇所。市HPや各校通学路安全マップ等で周知を図っている。前年度の調査以降、新たな危険箇所の報告が1件あったが、街灯に関するものであったため、新規箇所として追加せず、市民協働グループ及び土木・公園グループに情報提供した。

・ブロック塀等の安全点検により把握した危険箇所の報告が12件あり、確認の結果、地震や老朽化による倒壊の危険性がある箇所が2件。いずれも通学路ではないため、建築住宅グループへ情報提供した。

※ 協議会参加者：北海道開発局室蘭開発建設部・胆振総合振興局室蘭建設管理部・室蘭警察署交通課・登別市都市整備部・市民生活部・登別市教育委員会学校教育グループ

・地域や保護者の協力を得た見守り活動～町内会等地域ボランティアによる見守り活動のほか、保険会社や郵便局など、市が協定を結ぶ企業と情報共有をして進めた。

○学校施設

・幌別西小学校校舎の耐震改修工事（Ｉ期）・大規模改造（外壁）工事

１．外部耐震ブレース設置　８構面　　２．耐震スリット　　１０箇所




・富岸小学校校舎の耐震改修工事・大規模改造（外壁・屋根）工事

１．外部耐震ブレース設置　１構面　　２．ＲＣ増設壁　４箇所　　３．耐震スリット　２箇所

耐震性の判定基準は、構造耐震指標　Is≧0.70　　校舎１　Is　改修前 0.51　→　改修後 0.72




・登別小学校校舎の耐震改修の実施設計

１．校舎耐震改修工事　　２．校舎大規模改造（外壁）工事　　３．校舎大規模改造（屋根）工事

評　価	交通安全教室や防犯教室、情報モラル教育、避難訓練等、関係機関や地域との連携のもとに取り組むことができた。とくに、ネット利用による健康被害については、市Ｐ連や校長会と協力し、積極的に情報提供を行った。 通学路の安全については、通学路安全推進協議会を開催、報告のあった危険箇所について、関係部署に情報提供した。学校施設の耐震化については、富岸小学校並びに幌別西小学校校舎の耐震改修工事と登別小学校校舎の耐震改修の実施設計を計画通り実施した。
今後の方向性	児童・生徒の安全指導については、登別市通学路交通安全プログラムの進行管理により通学路の安全確保に努めるとともに、家庭や地域、関係機関と連携し、避難訓練や防犯教室、情報モラル教室、消費者教室などの取組を促す。 また、登別市総合防災訓練と、道が主催する一日防災教室を鷲別小学校で実施する。

項　目	11　不登校・いじめ対応
点検内容	各学校のいじめ防止基本方針に基づく組織的な取組を促すとともに、登別市不登校・いじめ等対策会議などでの事例研修や情報交換を通して教職員の指導力の向上を図り、早期発見、早期対応がなされるよう取り組む。 また、不登校への対応については、適応指導教室や体験教室の充実を図り、登校意欲を高める。

取組状況

○いじめの起きない環境づくりや不登校に対する体制づくり

・第1回登別市不登校･いじめ等対策会議

日時：平成30年5月16日（水）14：30

参加：校長会代表・教頭会代表・各小中学校担当・教育委員会

内容：報告～29年度における本市不登校の状況・いじめ認知数等・教育相談状況、30年4月現在の状況
協議～30年度各種事業・各校取組の情報交流・指導専門員からの資料提供
研修～小中別交流会

第2回登別市不登校・いじめ等対策会議

日時：平成31年2月12日（火）15：00

内容：報告～30年度における本市不登校状況・いじめ認知件数・教育相談状況、30年度1月現在の状況
協議～31年度各種事業・各校取組の情報交流・資料提供
研修～中学校区別交流会

・第1回ふれあいサポート懇談会

日時：平成30年7月6日（金）14：30

参加：校長会代表、教頭会代表、不登校児童生徒を抱える学校の教職員、
不登校児童生徒が皆無の中学校区は校区内から教職員1名、教育委員会関係者

内容：30年5月末不登校児童生徒状況、第1回学校訪問報告、
不登校・不登校傾向及び長欠児童生徒に関する情報交流、鷲別岳登山について連絡

第2回ふれあいサポート懇談会

日時：平成30年10月12日(金)14：30

内容：30年9月末不登校児童生徒の状況、第2回学校訪問報告、情報交流
研修（講話）「不登校への対応の在り方を考える」　講師：登別中学校　教頭　山岸　弘昇　氏

・教職員研修会（講演）

日時：平成30年6月23日(金)15：00　参加：市内小中学校教職員・教育委員会関係者 参加人数204名

演題　「子どもの心の健康を考える」　講師　三愛病院医療福祉相談室　竹内　亮平　氏

・体験教室「陶芸教室」（健千窯）水曜午前　学校の申し出で協議し随時実施　30年度6名通級

・適応指導教室「スタディ広場」火曜と木曜　学校の申し出で協議し随時実施　30年度3名通級

・自然体験　8月10日(木)　鷲別岳登山　1名参加

・教育指導専門員による相談(電話・来室)6件　学校訪問　年2回（6月中旬・9月中旬）

・不登校等支援関係者情報交流懇談会　2月12日(火)　ＳＣ・ＳＳＷ・心の教室相談員

・保護者相談～希望により随時開催

・いじめ関係　アンケート調査(年2回)　取組状況調査(年2回)　対応状況調査(年3回)

○不登校出現件数・いじめ認知件数の推移　（単位：件数）

不登校出現件数の推移
（病欠以外の欠席累計30日以上）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
小	8	5	4	1	2	1
中	25	23	22	18	19	21
計	33	28	26	19	21	22

いじめ認知件数の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
小	26	9	22	14	3	11
中	22	11	3	7	11	5
計	48	20	25	21	14	16

○ＳＣ･ＳＳＷ･心の教室相談員の支援

・ＳＣ（スクールカウンセラー）の相談内容

相談者	不登校	いじめ	暴 力	友人関係	教師との関係	親子関係	心身健康	発達障害	学業進路	合 計
児童生徒	64	0	0	30	0	2	1	17	0	114
保護者	59	0	0	16	0	0	0	7	1	84
教職員	30	0	0	9	0	0	1	6	0	47
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

・ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）～２名配置　活動状況　全学校を訪問

活動時間	10:30～16:15
対　　象	支援児童生徒　保育所0人　小学校3人　中学校7人　その他0人
問 題 別	家庭環境2件 不登校6件　児童虐待2件 発達障害2件
訪問回数	学校35件　関係機関14件　家庭4件

・心の教室相談員

鷲別中 88 日・幌別中 83 日・緑陽中 101 日・西陵中 80 日・登別中 86 日　　相談 119 件(前年度 34 件)

評　価	登別市不登校・いじめ等対策会議や教育指導専門員による学校訪問、アンケート調査等を通して、不登校・いじめの実態把握に努めるとともに、具体的手だての共有を図り、関係機関と連携をして効果的な指導を展開した。不登校・いじめ出現率はほぼ横ばいだが、ＳＣへの相談件数は増加傾向にある。また、平成30年度から登別中学校に心の教室相談員を配置することで、全中学校に相談員が配置されるようになった。 また、利用者数は少ないものの、陶芸教室や適応指導教室では登校への意欲を高めるために、きめ細やかな支援を行うことができた。支援を必要とする児童生徒が効果的に利用することができるよう、学校・保護者への適切な働き掛けをする必要がある。
今後の方向性	引き続き教育指導専門員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心の教室相談員の配置による相談体制の充実と、適応指導教室での登校支援に努めるとともに、登別市不登校・いじめ等対策会議を活用し、問題の未然防止や、早期発見・早期対応に取り組む。

項　目	**12　特別支援教育**
点検内容	「個別の教育支援計画」をもとに、登別市支援ファイル「ふくはうち」を活用するなど、教育と福祉が連携した取組を進め、一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。 また、今年度より新たに鷲別小学校に言語障害通級指導教室を開設し、児童の成長を支援していく。

取組状況

○市内小中学校の特別支援学級の状況

	小　学　校	中　学　校
知的障害学級	8学級24名 （ 8学級24名）	5学級 18名 （5学級 15名）
自閉･情緒学級	9学級39名 （10学級47名）	5学級 13名 （5学級 13名）
肢体不自由学級	3学級 4名 （ 4学級 5名）	1学級　1名 （1学級　1名）

担当教員	44名(44名)
介助員	7名(7名)
学習支援補助員	17名(20名)

○登別市教育支援委員会の取組

①就学前からの教育相談や就学指導

	担 当	内　　容
ﾊﾟｰﾄﾅｰﾃｨｰﾁｬｰ 派遣事業	学教G	特別支援学校教員による小中学校の発達障がいを含む障害のある児童生徒に対する指導・支援 活用校～幌西小4名 幌東小5名 青葉小2名 登別小6名 幌別中9名
教育支援委員会 9月～12月	学教G	適正就学に向けた取組 ・委員の幼稚園･保育所訪問観察･検査、担当者との懇談 ・諮問：11/12　答申：12/14（全委員出席） ・総合検査：11/16　検討審査：12/4～12/7
教育支援委員の学校訪問	学教G･対象校	9～11月実施
１日体験入学	全小学校	1～2月各学校で実施
新入学児童合同引き継ぎ	幼･保･小	3/26.27 幼保･小実務担当者会議(就学時引き継ぎ)

②その後の一貫した支援

・各種研修会

登別市特別支援教育振興協議会第1回研修会　8/8 幌別東小学校　17名参加

講師：胆振教育局教育支援課義務教育指導班指導主事　坂内仁氏　内容：k-ABCⅡの実践について

登別市特別支援教育振興協議会第2回研修会　1/10　幌別東小学校　24名参加

講師：室蘭市立白蘭小学校　養護教諭　菅原香織氏

内容：支援が必要な児童生徒・保護者への対応　～今日から使えるかかわりのコツ

・特別支援学級作品展 10/13（土）～10/19（金） 主催者：登別市特別支援教育振興協議会

内容：作品を通した交流により間接的に思いを感じたり伝えようとしたりする態度を育成し、コミュニケーション能力の向上を図る。

・特別支援教育懇談会　11/27

内容：登別市内の障がい者団体と教育委員会が市内小中学校の特別支援教育の在り方を意見交換。
本市の特別支援教育の現状と課題や、学校や家庭、地域、関係団体協力や連携の在り方について

参加：登別市手をつなぐ育成会:3名 登別市ことばを育てる親の会:2名

評　価	教育支援推進専門員を中心に、各学校の特別支援教育コーディネーターや関係機関、保護者とのきめ細やかな連携に努め、教育相談や就学指導を適切に実施し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の充実を図るとともに、就学後も必要に応じて支援を継続した。 校長会・教頭会において、支援ファイル「ふくはうち」の利用促進を周知するなど、教育と福祉が連携した取組を進めた。平成 30 年度から、言語障害通級指導教室を鷲別小学校に開設、幌別小学校とあわせて市内 2 教室とし、児童の成長を支援する体制を強化した。
今後の方向性	各学校の特別支援教育コーディネーターを中心に、個別の教育支援計画・指導計画に基づく適切な指導がなされるよう支援する。 また、登別市特別支援教育振興協議会が取り組む指導内容の研究や交流事業などの活動を支援する。

※登別市支援ファイル「ふくわうち」とは…障がいのある方や発達に心配のある方の情報を保健・福祉・医療･教育･就労などの関係機関で共有することで、地域の中で一貫した継続的な支援が受けられるよう、本市保健福祉部障がい福祉グループが作成したもの。

項　目	13　就学援助
点検内容	就学が困難な児童・生徒の保護者に対し適切な時期に必要な支援を行うため、新入学児童生徒学用品購入費の入学前の支給を実施する。 また今年度より、支給対象項目にクラブ活動費と生徒会費を加え、支援の拡充を図る。

取組状況

○平成30年度　就学援助費支給内訳

・登別市児童生徒就学援助規則により、対象となる世帯からの申請に基づき、就学に必要な経費を援助。

費目	小学校		中学校	
新入学児童生徒学用品購入費	1年生	40,600円	1年生	47,400円
学用品費など	1年生	11,420円	1年生	22,320円
	2～6年生	13,650円	2･3年生	24,550円
学校給食費	1～6年生	49,920円	1･2年生	59,520円
			3年生	57,040円
通学費（定期券の金額を支給）	実費額（児童片道4km・生徒片道6km以上）			

・3期（5月・8月・12月）に分けて支給。

・校外活動費は交通費と見学料が支給になり、その他の経費は対象外。

・PTA会費、修学旅行費は実費支給（PTA会費は限度額の範囲内）。

・新入学児童生徒学用品購入費　平成30年3月2日支給

・支援対象項目にクラブ活動費と生徒会費を追加。

・平成30年度　就学援助費支給児童数391名（18.3%）　支給生徒数234名（21.5%）

評　価	「要保護児童生徒援助費補助金について（H29.3 文科省通知）」を受け、新入学児童生徒学用品購入費の入学前支給を実施。クラブ活動費と生徒会費も追加することができた。
今後の方向性	小学校入学前の全対象世帯に入学前支給の周知をしたが、初年度ということもあり、予算比の約45%に留まった。例年通り、4月中の申請も一定数あったが、入学前支給制度について、内容の周知を図る必要がある。

項　目	14　生涯学習の推進
点検内容	市民のニーズに合った多様な学習機会の創出と、学習成果を地域活動につなげていく知の循環型社会を目指し、第五次社会教育中期計画に沿った各種施策に取り組む。

取組状況

○「第5次社会教育中期計画」に基づいた主な各種施策

・人づくり①青少年世代～これからのまちづくりを担う青少年の健全な育成と地域教育力の向上

学校支援本部事業	各中学校区	コーディネーターを配置し体験活動を実施　◇P49～参照
少年の主張大会	西陵中6/6	中学生による意見発表大会　市内6校12名出場
放課後子ども教室	鷲小・東小	放課後に子どもが安心して活動できる居場所づくり ひなわしメート＝124名登録　はまなすメート＝47名登録

成人祭	市民会館	市と実行委員による企画、運営　出席者330/541人　H31.1.13
通学合宿	ふぉれすと鉱山	小学5.6年生対象に共同生活を通し生活習慣の向上を図る

（◇放課後子ども教室や通学合宿の詳細はP49を参照）

・人づくり②成人世代～学習意欲の向上の奨励と地域活動の担い手の発掘・育成

・人づくり③高齢者世代～学習機会の充実と地域の模範となる高齢者の活動による地域教育力の向上

登別ときめき大学	72名登録	市教委の基礎コースと各団体の講座を連携コースとした生涯学習 基礎コース8講座～受講者209名　他、連携コース140講座実施
市民マイプラン講座	市内各所	サークル等が企画した講座や学習会を支援する 利用団体＝12団体（文化・福祉団体等）
胆振女性リーダー養成研修	2名派遣	女性リーダーの資質向上と地域づくりのための団体活動の活性化が目的　8/29～9/1　国立女性教育会館（埼玉県）

（◇「家庭教育」→P48を参照　「文化活動」「健康づくり・スポーツ」→P53を参照）

・「学習環境の整備」　生涯学習人材バンク　登録者83名（平成29年度79名）81団体（平成29年度79団体）
新規登録4名～書道・ヨガ・染色等

○「学校支援地域本部」から「地域学校協働本部」への発展について

・現在ある学校支援本部事業の形を活かし、将来的に地域学校協働本部へ発展的に移行する在り方を検討。

・体制強化の面から、コーディネーターを補助するサブコーディネーターの配置を進める。

評　価	市民一人ひとりが生きがいを持って自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、人づくりという観点から各世代に応じた事業を展開することができた。 また、５つの中学校区に配置されているコーディネーターを中心に、「地域学校協働本部」への移行、機能の拡充に向け、サブコーディネーターの配置など体制の強化に努めた。
今後の方向性	さらに体制を強化するため、地域の実情に応じて、全小中学校にサブコーディネーターを段階的に配置していく。

項　目	**15　ふるさと学習**
点検内容	市史編さんの中で紐解かれた郷土の歴史や文化を学ぶ機会の充実を図り、市民一人ひとりが地域に誇りと愛着を持ち、地域に貢献しようとする意識の醸成を図る。

取組状況

○郷土の歴史や文化に関する各種講座開催の奨励

○アイヌ文化の伝承や普及・啓発～登別アイヌ協会や関係ＮＰＯ法人等の取組支援

保健福祉部所管事業であったアイヌ文化講座(制作)及び(公財)北海道アイヌ協会主催事業への助成金交付事務が教育委員会へ移管され、アイヌ文化に関する窓口が市役所内において教育委員会に一本化された。

アイヌ文化講座（制作）の講師を登別アイヌ協会の会員に依頼したほか、知里真志保を語る会及びＮＰＯ法人知里森舎主催事業の周知等で支援を行った。

◇縄文出前講座　4月　市内小学校5校で実施（6年生 10クラス 244名参加）

◇古文書教室　2/10・24・3/9　古文書解読の実践3回。延べ64名参加
3/16　実際の古文書を観察。特徴をつかむ講座。13名参加

◇アイヌ文化講座

（制作）　9/14～11/16　登別アイヌ協会の会員を講師にアイヌ文様の刺しゅうを施した一閑張りのバッグ制作　全10回　17名参加

（講演）　2/2　苫小牧駒澤大学准教授　坂田　美奈子 氏より「先住民族における血統とアイデンティティーグローバルな視点で考える近現代アイヌの文化変容－」と題して講演いただき、市民にアイヌ文化を学ぶ機会を提供した。参加者49名

◇歴史交流事業　7/26-28　本市学芸員2名を派遣、岩手県に残る本市関係資料の所在調査を行った。

7/28　姉妹都市白石市において、本市学芸員が歴史交流講演会を行った。

「北海道150年とアイヌ語地名ー今、景観から感じるアイヌの世界観ー」

「明治における片倉家の所領支配」　34名参加

◇郷土資料館特別展　9/22～12/24「明治期の登別～アイヌ、侍、四国・淡路の人々～」　見学者734名

9/28　カルチャーナイト　見学者11名

3/9～4/14「はじめまして！－平成30年度新資料－」　見学者276名

◇郷土資料館企画展　4～5月「五月武者人形展」5～6月「さくら写真展」2～3月「おひなさま人形展」

・郷土資料館事業　5/19 わんぱくサムライ体験70名

・文化伝承館事業　通年　ボランティアSLGによるべこもちづくりなどの体験　17回　239名参加

◇各種講演等

4/14　「ほろべつ散歩」（山手町内会婦人部）

5/17　「「まちものがたり　幌別かいわい」に関する座談会」（北海道新聞連載記事）

6/19　「小中学校でのアイヌ文化学習について」（NHKラジオ「旅ラジ」）

7/13　「アイヌ語地名と物語で巡る西胆振の景勝地」（登別ときめき大学基礎コース）

評　価	アイヌ文化の伝承や普及・啓発については、平成 30 年度より取組の充実を図るためアイヌ文化に関する窓口を教育委員会に一本化し、新たに設置される国立博物館を含めた関係機関と連携・協働した調査研究を進めるとともに、登別アイヌ協会など市内関係団体とも相互扶助を図りながら、アイヌ文化を自分たちの共有財産として継承していくことができるよう、普及・啓発の取組を進めた。
今後の方向性	登別の歴史や文化、自然などを活用し、全ての市民が郷土への関心と愛着を深めながら心豊かに暮らすことができるよう、学びの機会の充実を図る。 　また、アイヌ文化に関しては、登別アイヌ協会を中心に市内関係団体の連携強化が図られるよう努めるとともに、刺しゅうなどの文化講座や各種講演会などの活動を通して、伝承と普及に努める。

項　目	**16　家庭教育**
点検内容	家庭教育学級を通して情報提供や学習機会の充実に努めるとともに、登別市ＰＴＡ連合会や登別市校長会と連携を図りながら、家庭におけるメディアとの関わり方や有効な時間の過ごし方などについて啓発する。 　また、児童の望ましい生活習慣の確立や、社会性・協調性を育むため、登別市子ども会育成連絡協議会やボランティア団体の協力を得て、通学合宿や放課後子ども教室を実施する。

取組状況

〇家庭教育学級で取り組まれている実技講習会や講演会、作品展の支援　参加者1,428名

リリー文化幼稚園	7/13親子遠足　11/8クリスマスリース講習会　1/28ヤマハコンサート 2/4ツボ押しリンパ流し講習会
登別カトリック 聖心幼稚園	8/27フットリフレクソロジー　10/31アロマスプレー・バスボム作り 1/25エアロビクス
白雪幼稚園	6/28ふれあい祭り　10/26ハロウィンパーティー　12/11おもちつき
白菊幼稚園	5/24フラダンス　7/4アウトドア　10/11そば打ち体験 11/14ヨガ体験　12/28おもてなし料理
登別小学校	2/19不審者対応訓練とスマホ被害の現状と安全な使い方
幌別東小学校	2/16そば打ち体験教室　2/22講話（栄養教諭・養護教諭）と給食試食会
幌別小学校	5/23アグセサリーの作製・給食試食会　7/18バス研修旅行 2/21雑巾縫い・給食試食会・開級
幌別西小学校	8/22ハーバリウム体験　11/14色彩心理体験セミナー
青葉小学校	7/11アイシングクッキー作り　11/21あて布作り・給食試食会・閉級式
富岸小学校	7/24手作りアイシャドウと虫よけスプレー　10/1コーヒー教室　2/6ヨガ
若草小学校	12/6ジェルキャンドルづくり
鷲別小学校	9/27おいしい味噌をつくろう　10/16陶芸教室　11/20陶芸教室（釉薬づけ）
市教委主催	7/4親子で身に付ける生活習慣～子どものメディアとの関わり方～ 講師:北海道教育庁胆振教育局教育支援課　社会教育指導班主査　永堀　善之　氏 11/23思春期の心理を理解する 講師:北星学園大学　福祉心理学科 牧田　浩一　氏

・家庭教育活動展　各学級施設　7学級

○「通学合宿」　みんなで学ぶ「子ども村」　場所：ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」
目的～基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせるとともに、協調性や責任感を育む。
対象～小学5.6年生対象　2地区に分け、4泊5日、年3回実施。（平日は施設から登校）計116名参加。
運営～地域ボランティアの協力や北海道の学校サポーター派遣事業を活用して実施。
幌別小・幌別西小・幌別東小・登別小グループ 5/8～12 37名参加
青葉小・富岸小・若草小・鷲別小グループ 5/22～26 37名参加　　全校 11/6～10 42名参加

○「放課後子ども教室」～放課後に子どもたちが安全・安心にて過ごすことができる活動拠点づくり
活動日時～平日2日間、4～9月午後5時まで　10～3月午後4時まで
運営～コーディネーターや教育活動サポーターなど地域の方々による実行委員会が主体。
鷲別地区放課後子ども教室「ひなわしメート」 合計96日間実施　計3,351名
幌別東小学校区放課後子ども教室「はまなすメート」 合計91日間実施　計1,205名

○登別版「家族の週間」の実施について
平成25～29年度に実施した「家族の時間づくりプロジェクト」の後継事業。家族や地域の大切さ等について理解の促進を図ることを目的とした内閣府が定める「家族の日・週間」に合わせ、平成30年度から実施。

実施期間　平成30年11月11日(日)～18日(日)　児童生徒による協賛団体利用割合10.5%
内閣府が定める「家族の週間」「家族の日」にあわせ実施。
内容　市内テーマパークや公共施設への入場料、登別温泉日帰り入浴に特典。
協賛　(株)登別マリンパークニクス　(株)登別伊達時代村　登別温泉ケーブル(株)
(一財)登別市文化・スポーツ振興財団　ＮＰＯ法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ
おもちゃの博物館「古趣 北乃博物館」　登別温泉旅館組合

○「学校支援地域本部事業」　参加者数 計4,303名（大人・児童・生徒とも）

【鷲別中学校区】

鷲別小学校	事業内容
4月中旬	新1年生の付添登下校
5～3月	鷲別子ども見守り隊による登下校の見守り 放課後子ども学習塾　5・6年
7/10	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）
2/22	5.6年スキー授業の指導、補助
7月下旬 2回	夏季学習サポート（国語・算数）
12月下旬 2回	冬季学習サポート（国語・算数）
2月	ひな人形飾り（3月片づけ）
若草小学校	事業内容
5月 9月	ふれあい農園（いも植付け・いも掘り・収穫祭）
7/6	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）
11/10	ふれあい活動（昔遊び体験、縁日を楽しむ）
2/14	5.6年スキー授業の指導、補助
6～2月 12回	放課後子ども学習塾（算数）4・5・6年
鷲別中学校	事業内容
4月中旬(2回) 9月中旬(3回)	夜間パトロール（新学期・学校祭前下校生徒のため）

【緑陽中学校区】

富岸小学校	事業内容
5/23.9/3	ジャガイモの植え付け・収穫
6/19	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）
7/26.27	5.6年学習サポート（国語・算数）
12/25.26	5.6年学習サポート（国語・算数）
2/7.12	5.6年スキー授業の指導、補助
4～3月 9回	放課後サポート　5・6年
青葉小学校他	事業内容
9/5	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）
10/13	茶道教室（青嶺高茶道部による指導）
1/19	餅つき会（ＰＴＡ、親父の会、地域の協力による）
2/16	スポーツチャンバラの体験会
2/24	あおば冬祭り（3本綱引き大会）
5月から12回	放課後サポート　5・6年

【幌別中学校区（幌別小・幌別東小・幌別中）】

実施時期	事業内容
5月	ふれあい農園　米作り準備
5/26	ふれあい農園　田植え
6月～8月	ふれあい農園　管理

10月予定	ふれあい農園　稲刈り・脱穀　→　鹿の食害により中止
10月予定	ふれあい農園　収穫祭準備（精米）　→　鹿の食害により中止
6/18.7/4	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）（幌別東小・幌別小）
9/24	ふれあい広場　乗馬・餌やり体験
2/15	5.6年スキー授業の指導、補助
5～3月	放課後学習塾（幌別小・幌別東小）
週3回	図書ボランティア～図書の整理修理等（幌別東小）

【西陵中学校区（幌別西小・西陵中）】

実施時期	事業内容
5～2月　15回	放課後学習サポート　幌別西小4～6年
7/12	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）
11/10	親子ふれあいスポーツ大会
2/13	5.6年スキー授業の指導、補助

【登別中学校区（登別小・登別中）】

実施時期	事業内容
4～3月	放課後学習　5・6年
5～7月	ふるさと農園準備・花壇整備
8/25	ふるさと農園収穫祭
5/12.10/13	サケの放流・採卵体験
10/27	モザイクアート教室（小物入れ等作成）
1～2月　5回	スキー授業の指導、補助
2/4	世代間交流（昔の遊び・給食で交流）

評　価	家庭教育学級では、さまざまな取組を通して家庭の教育力の向上を図ることができた。家族の時間づくりプロジェクトの後継事業である「家族の週間」において、協賛団体を利用する児童生徒の割合は前年度とほぼ同様となり、一定程度の成果が継続しているものと思われる。通学合宿や放課後子ども教室、学校支援地域本部事業においては、地域ボランティアの協力のおかげもあり、子どもたちに豊かな学びの場を提供することができた。
今後の方向性	家庭教育学級を通して情報提供や学習機会の充実に努めるとともに、登別市ＰＴＡ連合会や登別市校長会と連携を図りながら、家庭におけるメディアとの関わり方や有効な時間の過ごし方などについて啓発する。

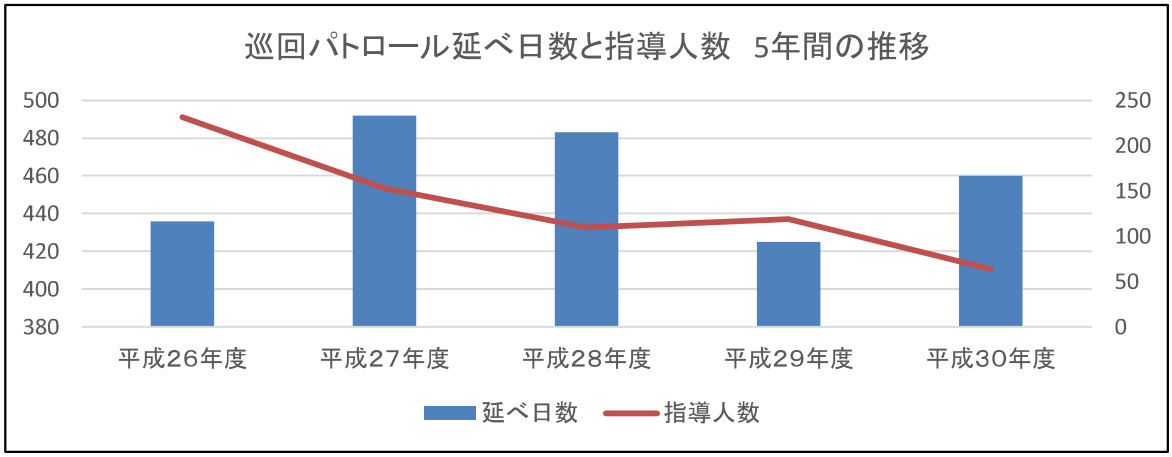
項　目	**17　青少年の健全育成**
点検内容	青少年センターを中心に、家庭や地域との連携のもと、登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導に取り組むとともに、学校や関係機関と情報を共有し、不審者対策や非行の未然防止に努める。

取組状況

○登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導

・市内巡回パトロール（通常・特別）実施状況

	通常巡回		特別巡回	合　計
	鷲別･緑陽 中校区	登別･幌別･西陵･明日 中校区	（列車添乗･祭典その他）	
延べ日数	194日	206日	60日	460日
延べ巡回数	338回	376回	116回	830回
延べ人員	536人	594人	288人	1,418人
指導人数	36人	28人	0人	64人



※指導の内訳（その他にはゲームコーナーを含む）　（単位：件数）

	自転車等			危険な行為			その他			合　計		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
13歳未満	19	21	9	66	71	33	1	0	8	86	92	50
13歳	0	4	1	1	3	0	0	0	0	1	7	1
14歳	3	7	5	12	0	0	0	4	0	15	11	5
15歳	4	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	2
16歳	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	2
17歳	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	5	2
18歳	2	0	2	0	4	0	0	0	0	2	4	2
19歳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
合計	30	37	21	79	78	33	1	4	10	110	119	64

「自転車等」指導内容と推移（前年度比）無灯火6件（－8件）並進運転10件（＋10件）車道の逆走3件（－8件）

「危険な行為」指導内容と推移（前年度比）道路遊び4件（－34件）　スケートボード7件（－8件）

インラインスケート7件（＋7件）危険な道路横断10件（＋8件）　他

・万引き状況　（調査を依頼し報告を受けたもの）　（単位：件数）

	小学生	中学生	高校生	小中高以外	合計
27年度	12	2	0	9	23
28年度	10	0	0	6	16
29年度	10	0	0	9	19
30年度	1	6	1	4	12

※市内大型店3店舗、市内コンビニ20店舗、その他25店舗、計48店舗の協力による。

・不審者・変質者出没状況　　（単位：件数）

	温泉地区	登別地区	幌別地区	鷲別地区	その他	合計
27年度	0	3	15	11	0	29
28年度	0	0	14	16	0	30
29年度	0	0	4	8	0	12
30年度	0	1	2	8	0	11

○子ども110番の家　地域住民・商店の協力による子どもの駆け込み場所　444件設置
内訳：鷲中校区110件 緑中校区109件 幌中校区122件 西中校区46件 登中校区57件

○情報の共有
・登別市青少年指導委員連絡会～学校教員と一般の指導員による交流、状況や指導の重点を確認。
・登別市小学校・中学校合同生徒指導担当者連絡会議～小学校・中学校他代表教諭による現状や課題などについての情報交流、協議、問題行動の早期発見や未然防止を図る。
・不審者出没状況調書、巡回パトロール活動及び街頭指導等状況調書による情報発信。
・メール配信システム
室蘭市や伊達市など、西胆振6市町の定住自立圏連携事業が進める、保護者向けのもの。
学校から保護者に災害･不審者情報、臨時休業のお知らせ等をいち早く確実に伝える。
参加校～小学校7校、中学校4校。他、小学校1校は他のシステムを利用、中学校1校は導入準備中。

評　価	巡回パトロールでは、延べ日数が増加したものの、年々指導人数が減少している。さらに巡回日数の効率化を図ることが可能かもしれない。不審者の出没状況は、昨年度とほぼ同数だが、過去４年間の中で最も少なかった。
今後の方向性	学校・家庭・地域の連携のもと、登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導に取り組むとともに、学校や関係機関と情報を共有し、良好な環境づくりに努める。 メール配信システムは、各学校において加入率が高まっている。全小中学校の導入に向けて支援していく。

項　目	**18　文化・スポーツの振興**
点検内容	昨年度、郷土芸能や武道などに取り組む子どもたちの活動を広く紹介した登別市文化・スポーツ振興財団と登別市文化協会、登別市体育協会の合同事業を支援した。 引き続き、市民の文化活動への参加促進や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会などの充実に努める。 また、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、子どもたちの夢を育み、市民のスポーツに対する意識を高めるため、平成 28 年度からオリンピアンによる講演会や実技講習会を開催してきた。今年度は卓球競技において実技講習会等を実施する。

取組状況

○西いぶり定住自立圏文化事業
公演「小野リサ 30th アニバーサリーツアー ～旅 そして ふるさと～」　11/25　567名

○芸術鑑賞を通じた豊かな心の育成

・平成30年度文化芸術による子供の育成事業「ルドルフとイッパイアッテナ」

ワークショップ　6/26　幌別小・幌別東小6年　児童43名　教員7名　計50名

本公演(市民会館)　10/2　市内小6児童399名　教員33名　保護者・一般39名　計471名

・学校での郷土芸能の伝承

鷲別小学校～鷲別子ども獅子舞　祭典や地域行事での披露

幌別東小学校～駒踊り　学校行事や市民演芸会で披露

登別中学校～熊舞　地獄まつり、外国人観光客歓迎時に披露

○市民へ文化活動の発表の場を提供

・市民会館サークル展　10/23～26 市民会館を中心に活動しているサークルの活動紹介と作品展示

13団体出展

○東京オリンピック・パラリンピック開催に向けてのスポーツの振興

オリンピック選手などによる講演会や実技指導等

講師：リオデジャネイロ五輪卓球日本代表　丹羽孝希　氏

9/30 トークショー「思い描く未来への挑戦」 実技指導

○健康づくり、スポーツ振興

市民ラジオ体操会	7/28 210名	スポーツ推進委員を中心に、鷲別小・青葉小で実施
西胆振6市町小学生スポーツ交流会	5/26 441名	西胆振3市3町の小学生を対象としたスポーツ大会（陸上競技） 会場：室蘭市入江運動公園陸上競技場
市民スポーツ・健康フェスティバル	9/22 677名	市内体育施設を会場とした市民スポーツ大会 岡志別の森運動公園：パークゴルフ･ソフトボール･駅伝168名参加 市民プール：泳げない子集まれ！水泳教室・パン食い競争・水中玉入れ競争・水中障害物競争・水中宝探しゲーム・個人水泳タイム計測・トレーニングマシン体験・ボッチャ・ゲーリング体験に509名参加
学校体育施設開放事業	通年	10施設(小8校、登中、旧温泉中体育館)を開放 延べ開放日数1,163日 延べ利用団体1,548団体 延べ利用人数21,717名

評　価	各種事業を活用し、市民一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな感性や創造性を育むとともに、心豊かな生活を送ることができるよう、郷土への誇りと生きがいを感じられるような文化活動を進めることができた。 また、3年目となる東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた講演会・実技指導は、卓球の丹羽氏を迎え、直接指導していただき、一流選手を身近に感じてもらうことで子どもたちに夢と希望を与える貴重な機会となった。
今後の方向性	登別市文化・スポーツ振興財団や登別市文化協会、登別市体育協会と連携し、市民の文化活動への参加促進や芸術を鑑賞する機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会などの活動の充実に努める。 また、東京2020オリパラで夢を育むスポーツ推進事業は、平成31年度、登別市水泳協会、JSS登別スイミングスクールの協力のもと水泳競技のオリンピアンを招き、講演会や実技講習会を開催する。

項　目	19　学校給食
点検内容	衛生管理の徹底を図るとともに、学校生活管理指導表を活用したアレルギー対策を実施し、安全・安心な給食の提供に努める。

取組状況

○地元の食材を積極的に取り入れた献立づくり（使用回数８０回　使用率３８．８３％）

毎日提供している「のぼりべつ牛乳」や富浦産だし昆布、鮭のダイスカット等、地場産品の積極的な活用。年１回開催する学校給食展での地場産品を活用した給食メニューの提供。地場産品の使用内容を献立表やランチメール等に記載し各学校や保護者に配布したほか、野菜等についても、入札規格等において近隣市町村産品または道産品を指定し広域な地産地消の取組も実施。

○発達期にある児童生徒に豊かでおいしい給食の提供

文部科学省の学校給食摂取基準等に基づき、学校栄養教諭が献立を作成するなど、児童・生徒の栄養価やエネルギーなどバランスの摂れた給食を提供。児童生徒の体力不足を補い丈夫な体をつくるため、学校教育Ｇと連携して各小学校に栄養教諭を派遣し、食育授業を年 12 回実施。

○「和食」を伝えるための給食の実施

月	和食の献立名
4 月	豚汁
5 月	ふきの味噌汁
6 月	ひっつみ汁
7 月	けんちん汁
8 月	もずくの味噌汁
9 月	きりたんぽ汁

月	和食の献立名
10 月	誤汁
11 月	石狩汁
12 月	豚汁
1 月	雑煮
2 月	鮭の三平汁
3 月	芋団子汁

○第 9 回登別市学校給食展

目的　　学校給食の意義・役割等について、市民の理解と関心を高め、学校給食のより一層の充実、発展を図ることを目的とする。

期間・場所　平成 30 年 10 月 16 日(火)　登別市民会館大会議室

内容　①試食会　　・地場産品を活用した学校給食メニューを提供

②食育相談所　　・栄養教諭による食育相談

③食品業者紹介コーナー・安全・安心な食品を届けてくれる給食物資納品業者による各種展示

④給食展スタンプラリー

提供内容　地場産品の「登別鮭」を使用した「登別鮭のクリームスパゲティ」

○食におけるアレルギー対応

①情報の共有

・学校や関係機関（医療関係や消防機関等）と、給食センターのアレルギー対応や各学校におけるアレルギーを有する児童生徒の状況、緊急時の対応、その他研修内容等を交流し連携を図った。

・学校や保護者から連絡等があった場合は、一層きめ細やかな対応等に努めた。

②実際の対応～学校から提出される「給食申込書」により対応。

牛乳アレルギー：小学校 18 名→緑茶に変更　　中学校（明日中等含む）13 名→緑茶に変更

③給食センターからの情報発信

各学校に対し食物アレルギーの児童・生徒用（学校等配布）　予定献立表（小中学校・児童生徒へ配布）

予定献立（主な材料名：小中学校へ配布）、使用品目のアレルゲン表示一覧表（小中学校へ配布）

ランチメール（小中学校へ配布）

評　価	献立に地元食材及び近隣や道産品を活用するとともに周知を図ることで、生産等に携わる方々の努力や苦労を理解し、感謝の念を育んだり、地域を尊重する気持ちを高めたりすることができた。 また、各小学校に栄養教諭を派遣して実施する食育授業が定着し、栄養学的視点からの授業に偏ることなく、児童生徒の健康維持・増進、体位の向上に寄与することができた。
今後の方向性	近年の食材の高騰により給食の栄養基準の確保が困難になるので、平成 31 年 4 月より給食費を改定する。今後も、安全で安心な給食の提供と衛生管理の徹底に努める。

項　目	**20　図書館**
点検内容	図書資料の整備や施設・設備の改善、レファレンスサービスなどの充実に努めるとともに市民が主体的に図書館活動に関わることのできる体制づくりに取り組む。

取組状況

○平成 30 年度

図書館での貸出冊数 192,264 冊　移動図書館車での貸出冊数 19,170 冊　購入冊数 5,955 冊

○図書ボランティアとの連携・協働。

おはなし会（12 回）、わらべうたと手遊び（8 回）、本の書評合戦「ビブリオバトルの夕べ」(6 回)、おはなしぽけっと主催「はじめての油絵」講座（全 2 回、10/6･20)、おはなしぽけっと主催「講談社全国訪問おはなし隊」(8/25)、おはなしぽけっと「お正月飾り工作とおはなし会」(12/22)、「学校図書担当者･学校図書ボランティア連絡協議会」(6/29)、「私のコレクション･ブック etc 展」主催：読書週間事業実行委員会（10/27-11/3）

○市民との協働事業

「ピリカチカッポ 美しい鳥の世界展」主催：ヨシキリの会（4/15-26)、地域文化講座「たたら製鐵講座」講師：室蘭・登別たたらの会(2/23)、「アイヌ講座」講師：富樫利一氏(全 2 回、6/16、11/3)、「登別の自然講座」講師：倉澤保文氏（全 2 回、1/19、3/16)、「国連世界食糧デー特別展」(10/15～11/3)、「登別温泉の歴史」講師：日野安信氏（9/29）

○ブックスタート・ライブラリースタート事業や図書館講座などを通して、利用者の増加を図る。

・ブックスタート（４か月児を対象に、絵本３冊とアドバイス集などを配布。実施数 287 人）

・ライブラリースタート（３歳児と保護者を対象に図書館で本１冊を選び送付。実施 127 人）

○図書館講座（資料の探し方やデータベースの使用法、暮らしに役立つ図書館の活用術。「登別ときめき大学」連携講座。単位２単位)「初めてのデータベース：データベースを使って調べものをする。」(10/20)

○主なイベント等の事業　（◇は「ふるさと学習」と関連）

4/3-13　「登別市立小中学校教科書展」

4/15-26　◇「ピリカチカッポ 美しい鳥の世界展」主催：登別自然愛好グループ「ヨシキリの会」

4/28-5/19　「絵本作家 堀川真　原画展とワークショップ」

6/16　◇アイヌ講座「知里幸恵・その愛」講師：富樫利一氏

6/29　「学校図書担当者･学校図書ボランティア連絡会議」

講義「学校図書館で新聞をどう使うか」講師：三上久代氏

7/13-29　「北海道命名 150 年　幕末明治期の北海道展」
7/28　「夏休み工作」
8/1-22　「図書を使った調べる学習コンクール入選作品展」
8/25　「講談社全国訪問おはなし隊」主催：おはなしぽけっと
9/1～15　「年長児の読書感想画展」対象：市内幼稚園と保育所の年長児　応募 280 作品
9/29　◇郷土史講座「登別温泉の歴史」講師：日野安信氏
10/6･20　「はじめての油絵」（全 2 回）講師：おはなしぽけっと高木三千子氏
11/18　「初めてのデータベース-データベースを使って調べものをする-」講師：図書館長
10/27-11/3　「私のコレクション・ブック etc 展」主催：読書週間記念事業実行委員会
11/3　◇ アイヌ講座「ホロベツ・アイヌの群像」講師：富樫利一氏
11/30　「ヨーロッパ公共図書館からの報告」（講師：永田治樹氏）胆振図書館協議会研究集会
12/1　工作「折り紙でクリスマスカードをつくろう！（主催：アーニス分館）
12/8　「クリスマス工作」
12/16　小･中学生の読書感想文･読書感想画コンクール入賞者表彰式
読書感想文応募：小学校 336 名･中学校 70 名　入選：小学校 44 名･中学校 14 名
読書感想画応募：小学校　251 名 入選：小学校 16 名
12/22　おはなしぽけっとの「お正月飾り工作とおはなし会」
1/19　◇「登別の自然と登別化石林」講師：倉澤保文氏
2/9　読み聞かせ講座「心を届ける朗読・読み聞かせ」講師：五十嵐いおり氏
2/23　◇地域文化講座『たたら製鉄講座』　講師：石崎勝男氏（室蘭・登別たたらの会）
3/1～31　雑誌と本のリサイクル市
3/16　◇「クッタラ火山噴出物と幌別化石林」講師：倉澤保文氏

○新規事業
・「移動図書館車運行業務」H30 年度で道南バスへの業務委託終了
・「ライブラリースタートのおはなし会」実施（毎月最終水曜日）
・「図書館市民活動サポーター」の説明会を開催（2/16・3/9）

評　価	図書資料の整備については、書架やフロア表示の改善、飽和資料の除籍と除籍資料の市民への提供を行った。また幌別西小の校舎取り壊しにより閉鎖される書庫に代わり、片倉町の教職員住宅を書庫として確保した。 レファレンスサービスの充実については、引き続き、参考資料の収集、郷土資料室の整理・データベースの活用講座の開催等の取り組みを実施した。 市民が主体的に図書館活動に関わることのできる体制づくりについては、「図書館市民活動サポーター」の要項を作成し、2 月から毎月説明会を開催した。サポーターについては令和元年 6 月からの発足を予定している。
今後の方向性	平成30年3月策定の「登別市立図書館のめざすもの」に基づき、郷土資料や行政資料の収集・整理に取り組み、登別に関する資料の充実に努める。また郷土資料のデジタル化について調査・研究を行い実施に向けて取り組む。さらに、アイヌ関連の資料の収集と展示に務める。

３ 重点施策の評定結果

	項　　目	点　検　内　容	評定
1	地域とともにある学校づくり	これまで本市においては、コミュニティ・スクールと学校支援地域本部を設置し、学校と家庭、地域が連携・協力し、地域の教育力を活かして子どもたちを育む教育の推進に努めてきた。今後は、地域全体の協働により子どもたちの成長を支える方向性が国から提言されているので、これまでの取組を検証するとともに、協働体制の整備などについて検討を重ね、地域学校協働本部へと発展するよう進める。	B
2	幼保・小・中連携 小中一貫教育	これまで登別市幼保・小・中連携協議会を中心に、情報交流や施設訪問などを通してそれぞれの教育活動への理解を深めてきたが、さらなる連携の強化に向け、教職員の合同研修や、幼児と児童の交流を推進していく。 また、小中一貫教育については、モデル校区での取組の成果や教育フォーラムにおける意見を踏まえ策定した登別市小中一貫教育基本方針に基づき、義務教育九年間を見通した継続的な指導が推進されるよう促していく。	B
3	確かな学力の向上	全国学力・学習状況調査の結果、「書くこと」に関する基礎的な事項や家庭学習の時間などで一定の成果が表れているが、一方では知識・技能を活用する力やテレビ・ゲーム機などさまざまなメディアとの接触時間などに課題があるので、教育課程課題検討委員会を通して学習指導の工夫・改善を図る。 また、チャレンジドリルの活用や放課後学習教室、長期休業中のサポート学習など、各学校の取組を支援する。	B
4	英語教育の推進	小学校での外国語科の導入に合わせて見直しを図った登別市小中学校英語教育推進プログラムをもとに、外国語指導助手を活用し、子どもたちのコミュニケーション能力の育成や外国の文化・歴史への興味を高めることを通して、国際理解教育を推進する。 また、小学校外国語巡回指導教員を活用して、小学校教員の英語力と指導力の向上を図り英語教育の充実に努める。	B
5	学校図書館の活用	読書・学習・情報センターとしての機能を生かし、学校図書館司書や学校図書館担当者を対象にした研修会などを通して専門的な知識を高め、児童・生徒の読書活動や学習活動の推進に努める。	A
6	教職員の指導力の向上	多様化する教育課題に適切に対応するため、教育実践研究奨励校に小・中学校十校を指定し、各学校の研究・研修活動を支援する。 また、長年の学校力向上に関する総合実践事業の取組が評価され、幌別小学校が平成29 年度の文部科学大臣表彰を受賞した。これは登別市の教育にとって極めて意義のあることと考え、引き続き同事業の成果が市内各学校に還元されるよう促す。	A
7	豊かな心の育成	自然体験活動やボランティア活動などに取り組む関係団体や地域ボランティアの方々との連携を図りながら、生命を大切にする心、他人を思いやる心、美しいものに感動する心の育成に努める。 また、学校では「特別の教科　道徳」の趣旨を踏まえた「考え、議論する」道徳の授業への転換を踏まえ、円滑に推進できるよう環境整備に努める。	A
8	体力の向上	一校一実践の取組の推奨やスポーツ指導員の派遣事業を実施し、学校体育の充実と運動の習慣化が進められるよう支援する。食育に関しては、栄養教諭を中心に学校の教育活動全体を通して食に対する正しい知識と望ましい食習慣が身に付くよう、指導の充実に努める。	A

9	特色ある教育活動	地域の自然や特性を活かしたスキー授業や温泉入浴体験、環境学習など取組を支援していく。	A
10	安全指導	児童・生徒が状況に応じて適切に行動できるよう、地域の方々や関係機関との連携による安全教室や防犯教室、避難訓練などの活動を支援する。 また、犯罪やトラブルに巻き込まれない力を身に付けるため、情報モラル教育や消費者教育などの取組を促す。 通学路については、登別市通学路交通安全プログラムに基づき、通学路の危険箇所の合同点検や道路管理者による改善などの進行管理を行い、登下校の安全確保に努める。	B
11	いじめ・不登校への対応	各学校のいじめ防止基本方針に基づく組織的な取組を促すとともに、登別市不登校・いじめ等対策会議などでの事例研修や情報交換を通して教職員の指導力の向上を図り、早期発見、早期対応がなされるよう取り組む。 また、不登校への対応については、適応指導教室や体験教室の充実を図り、登校意欲を高める。	B
12	特別支援教育	「個別の教育支援計画」をもとに、登別市支援ファイル「ふくはうち」を活用するなど、教育と福祉が連携した取組を進め、一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。 また、今年度より新たに鷲別小学校に言語障害通級指導教室を開設し、児童の成長を支援していく。	A
13	就学援助	就学が困難な児童・生徒の保護者に対し適切な時期に必要な支援を行うため、新入学児童生徒学用品購入費の入学前の支給を実施する。 また、今年度より支給対象項目にクラブ活動費と生徒会費を加え、支援の拡充を図る。	B
14	生涯学習の推進	市民のニーズに合った多様な学習機会の創出と、学習成果を地域活動につなげていく知の循環型社会を目指し、第五次社会教育中期計画に沿った各種施策に取り組む。	A
15	ふるさと学習	市史編さんの中で紐解かれた郷土の歴史や文化を学ぶ機会の充実を図り、市民一人ひとりが地域に誇りと愛着を持ち、地域に貢献しようとする意識の醸成を図る。	B
16	家庭教育	家庭教育学級を通して情報提供や学習機会の充実に努めるとともに、登別市ＰＴＡ連合会や登別市校長会と連携を図りながら、家庭におけるメディアとの関わり方や有効な時間の過ごし方などについて啓発する。 また、児童の望ましい生活習慣の確立や、社会性・協調性を育むため、登別市子ども会育成連絡協議会やボランティア団体の協力を得て、通学合宿や放課後子ども教室を実施する。	A
17	青少年の健全育成	青少年センターを中心に、家庭や地域との連携のもと、登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導に取り組むとともに、学校や関係機関と情報を共有し、不審者対策や非行の未然防止に努める。	A
18	文化・スポーツの振興	昨年度、郷土芸能や武道などに取り組む子どもたちの活動を広く紹介した登別市文化・スポーツ振興財団と登別市文化協会、登別市体育協会の合同事業を支援した。 引き続き、市民の文化活動への参加促進や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会などの充実に努める。 また、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、子どもたちの夢を育み、市民のスポーツに対する意識を高めるため、平成 28 年度からオリンピアンによる講演会や実技講習会を開催してきた。今年度は卓球競技において実技講習会等を実施する。	A

19	学校給食	衛生管理の徹底を図るとともに、学校生活管理指導表を活用したアレルギー対策を実施し、安全・安心な給食の提供に努める。	A
20	図書館	図書資料の整備や施設・設備の改善、レファレンスサービスなどの充実に努めるとともに、市民が主体的に図書館活動に関わることのできる体制づくりに取り組む。	A

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等

1　地域とともにある学校づくり

○　コーディネーターの担い手を確保するためには、町内会等といかに結びつくかが重要。市教委が市民に対して、地域で子どもたちを育てるというコミュニティ・スクールの趣旨をもっと啓発する必要がある。

3　確かな学力の向上

○　校長が校内の授業を毎日見て回ることは、子どもたちも先生方も緊張感を持って授業に臨むことができるので、とても良いと思う。

4　英語教育

○　小学校の外国語科導入を見越して、確かな学力の向上から分かれて起こされた項目なので、はじめから目標を達成できているとは言えないかもしれない。

○　小学生の英検ジュニアや中学生の英検三級への補助の効果等もしっかりと検証していくべきである。

5　学校図書館

○　貸出冊数や貸出人数は、学校司書配置校のうち３校の数字は上げ止まりの感がある。児童・生徒数の減少等の要因も踏まえた上で分析する必要がある。

○　朝読書はたいへん有意義である。子どもたちの読書への関心を高めるために、中学校にも学校司書を配置するよう、引き続き要望してほしい。

6　教職員の指導力の向上

○　留守番電話の設置などは、今までの学校では考えられないこと。何か苦情のようなものは寄せられていないのか。

○　「働き方改革」が叫ばれているが、教職員の意識改革だけでは限界がある。今までの学校とは違うということを丁寧に地域や学校に伝えていくことが大切。

○　各学校、先生方はしっかりと取り組んでいると思う。もっと高く評価しても良い。

8　体力向上

○　授業時数の確保は必要だが、マラソン大会などがなくなっていくことはさみしい。

○　市内の小学生が集まり、長縄跳び大会などができないだろうか。

○　スポーツ指導員の配置には予算がかかるがとても良いこと。効果は大きいと思う。

１２　特別支援教育
○　特別支援学級が生き生きしている学校は、素晴らしい学校だと思う。子どもの実態に即して、柔軟な対応ができるよう配慮してほしい。

１３　就学援助
○　新入学児童生徒学用品費購入費の入学前支給は、保護者の利便性を考えて導入した制度なので、より多くの家庭が適切に支給されるよう、周知を徹底すべきである。

１６　家庭教育
○　学校支援地域本部事業の参加者数が、前年度と比較すると大きく減少している。大人と児童・生徒を合計した人数となっているので、減少の原因を詳細に分析する必要がある。

Ⅴ 評価のまとめ

平成30年度の登別市教育委員会の重点施策として、点検・評価で取り上げた20項目の評定結果は、

Ａ：達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２項目
Ｂ：おおむね達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・　８項目
Ｃ：おおむね達成しているものの一部課題があるもの・・・・　０項目
Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの・・・・・・・・・・・・　０項目

であり、教育行政執行方針に沿っておおむね適切な教育行政の執行がなされたと考えております。今後も、この点検・評価の効果を高めるために、各種基本計画の内容を再確認するとともに、目標に向かってより多くの具体的な改善策が提示されるようにしなければならないと考えております。また、ＰＤＣＡ（計画・実行・確認・改善）のマネジメントサイクルを生かしたシステムづくりに心がけ、登別市の教育行政の推進に役立ててまいります。

Ⅵ 参 考 資 料

1　平成 30 年度教育行政執行方針

平成三十年第一回登別市議会定例会にあたり、教育委員会所管の行政執行に関する基本方針を申し上げます。

技術革新やグローバル化の一層の進展に伴う産業構造や社会システムの変化、女性・高齢者等の活躍の進展に伴う就学・就業構造の変化等により、社会は今後急速に変わっていくことが見込まれております。

こうした中、現在中央教育審議会では、第三期教育振興基本計画の策定に関わる諮問を受け、十数年先の社会の変化を見据えた教育政策に関する基本的な方針や、今後五年間の教育政策の目指すべき方向性について、審議が進められております。

教育委員会としましては、これらの動向をしっかりと見極めながら、特色ある登別の教育を推進するため、登別市学校教育基本計画の見直しを図るとともに、市民一人ひとりが主体的に学び、地域社会の担い手として活躍できる生涯学習社会の実現を目指してまいります。

以下、平成三十年度の重点項目について申し上げます。

はじめに「地域とともにある学校づくり」についてであります。

これまで本市においては、コミュニティ・スクールと学校支援地域本部を設置し、学校と家庭、地域が連携・協力し、地域の教育力を活かして子どもたちを育む教育の推進に努めてまいりました。

今後は、地域全体の協働により子どもたちの成長を支える方向性が国から提言されておりますので、これまでの取組を検証するとともに、協働体制の整備などについて検討を重ね、地域学校協働本部へと発展するよう進めてまいります。

次に学校教育についてであります。

これからの学校教育においては、自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成が重要であります。

本年度より、これらの理念を踏まえた次期学習指導要領の移行期間に入りますので、改訂の趣旨や内容が適切に反映されるよう学校の取組を促してまいります。

幼保・小・中連携については、これまで登別市幼保・小・中連携協議会を中心に、情報交流や施設訪問などを通して、それぞれの教育活動への理解を深めてまいりましたが、さらなる連携の強化に向け、教職員の合同研修や、幼児と児童の交流を推進してまいります。

また、小中一貫教育については、モデル校区での取組の成果や教育フォーラムにおける意見を踏まえ策定した登別市小中一貫教育基本方針に基づき、義務教育九年間を見通した継続的な指導が推進されるよう促してまいります。

学力の向上については、全国学力・学習状況調査の結果、「書くこと」に関する基礎的な事項や家庭学習の時間などで一定の成果が表れておりますが、一方では知識・技能を活用する力やテレビ・ゲーム機などさまざまなメディアとの接触時間などに課題がありますので、教育課程課題検討委員会を通して、学習指導の工夫・改善を図ってまいります。
また、チャレンジドリルの活用や放課後学習教室、長期休業中のサポート学習など、各学校の取組を支援してまいります。

英語教育については、小学校での外国語科の導入に合わせて登別市小中学校英語教育推進プログラムの見直しを図るとともに、外国語指導助手を活用し、子どもたちのコミュニケーション能力の育成や外国の文化・歴史への興味を高めることを通して、国際理解教育を推進してまいります。
また、小学校外国語巡回指導教員を活用し、小学校教員の指導力と英語力の向上を図り、英語教育の充実に努めてまいります。

学校図書館については、学校図書館司書や学校図書館担当者を対象にした研修会などを通して専門的な知識を高め、児童・生徒の読書活動や学習活動の推進に努めてまいります。

教職員の指導力の向上については、多様化する教育課題に適切に対応するため、教育実践研究奨励校に小・中学校十校を指定し、各学校の研究・研修活動を支援してまいります。
また、長年の学校力向上に関する総合実践事業の取組が評価され、幌別小学校が平成二十九年度の文部科学大臣表彰を受賞しました。このことは登別市の教育にとって極めて意義のあることと考えておりますので、引き続き同事業の成果が市内各学校に還元されるよう促してまいります。

豊かな心の育成については、自然体験活動やボランティア活動などに取り組む関係団体や地域ボランティアの方々との連携を図りながら、生命を大切にする心、他人を思いやる心、美しいものに感動する心の育成に努めてまいります。
また、学校では「特別の教科　道徳」の趣旨を踏まえた「考え、議論する」道徳の授業への転換が求められておりますので、円滑に推進できるよう環境整備に努めてまいります。

体力の向上については、一校一実践の取組の推奨やスポーツ指導員の派遣事業を実施し、学校体育の充実と運動の習慣化が進められるよう支援してまいります。
また、食育に関しては、栄養教諭を中心に学校の教育活動全体を通して食に対する正しい知識と望ましい食習慣が身に付くよう、指導の充実に努めてまいります。

特色ある教育については、地域の自然や特性を活かしたスキー授業や温泉入浴体験、環境学習などの取組を支援してまいります。

安全指導については、児童・生徒が状況に応じて適切に行動できるよう、地域の方々や関係機関との連携による安全教室や防犯教室、避難訓練などの活動を支援してまいります。
また、犯罪やトラブルに巻き込まれない力を身に付けるため、情報モラル教育や消費者教育などの取組を促してまいります。

通学路については、登別市通学路交通安全プログラムに基づき、通学路の危険箇所の合同点検や道路管理者による改善などの進行管理を行い、登下校の安全確保に努めてまいります。

いじめへの対応については、各学校のいじめ防止基本方針に基づく組織的な取組を促すとともに、登別市不登校・いじめ等対策会議などでの事例研修や情報交流を通して教職員の指導力の向上を図り、早期発見、早期対応がなされるよう取り組んでまいります。
また、不登校への対応については、適応指導教室や体験教室の充実を図り、登校意欲を高めてまいります。

特別支援教育については、「個別の教育支援計画」をもとに、登別市支援ファイル「ふくはうち」を活用するなど、教育と福祉が連携した取組を進め、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実に努めてまいります。
また、今年度より新たに鷲別小学校に言語障害通級指導教室を開設し、児童の成長を支援してまいります。

就学援助については、就学が困難な児童・生徒の保護者に対し適切な時期に必要な支援を行うため、新入学児童生徒学用品購入費の入学前の支給を実施しました。
また今年度より、支給対象項目にクラブ活動費と生徒会費を加え、支援の拡充を図ってまいります。

次に、社会教育についてであります。

市民のニーズに合った多様な学習機会の創出と、学習成果を地域活動につなげていく知の循環型社会を目指し、第五次社会教育中期計画に沿った各種施策に取り組んでまいります。

ふるさと学習については、市史編さんの中で紐解かれた郷土の歴史や文化を学ぶ機会の充実を図り、市民一人ひとりが地域に誇りと愛着を持ち、地域に貢献しようとする意識の醸成を図ってまいります。

家庭教育については、家庭教育学級を通して情報提供や学習機会の充実に努めるとともに、登別市ＰＴＡ連合会や登別市校長会と連携を図りながら、家庭におけるメディアとの関わり方や有効な時間の過ごし方などについて啓発してまいります。
また、児童の望ましい生活習慣の確立や、社会性・協調性を育むため、登別市子ども会育成連絡協議会やボランティア団体の協力を得て、通学合宿や放課後子ども教室を実施してまいります。

青少年の健全育成については、青少年センターを中心に、家庭や地域との連携のもと、登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導に取り組むとともに、学校や関係機関と情報を共有し、不審者対策や非行の未然防止に努めてまいります。

文化・スポーツの振興については、昨年度、郷土芸能や武道などに取り組む子どもたちの活動を広く紹介した登別市文化・スポーツ振興財団と登別市文化協会、登別市体育協会の合同事業を支援しました。

引き続き、市民の文化活動への参加促進や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会などの充実に努めてまいります。

また、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、子どもたちの夢を育み、市民のスポーツに対する意識を高めるため、一昨年からオリンピアンによる講演会や実技講習会を開催してまいりました。今年度は卓球競技において実技講習会等を実施してまいります。

学校給食については、衛生管理やアレルギー対策の徹底を図るとともに、子どもたちの健康の保持増進と体位の向上に向けて、安全で安心な給食の提供に努めてまいります。

図書館については、図書資料の整備や施設・設備の改善、レファレンスサービスなどの充実に努めるとともに、市民が主体的に図書館活動に関わることのできる体制づくりに取り組んでまいります。

以上、平成三十年度の重点について申し上げましたが、教育委員会としましては、総合教育会議を通して市長との連携をより深めながら、各種教育施策の推進に努めてまいります。

市民の皆様並びに議会議員の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

